

# データヘルス計画

## 第2期計画書

---

最終更新日：平成 30 年 09 月 27 日

フタバ産業健康保険組合

# STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	57467
組合名称	フタバ産業健康保険組合
形態	単一
業種	機械器具製造業

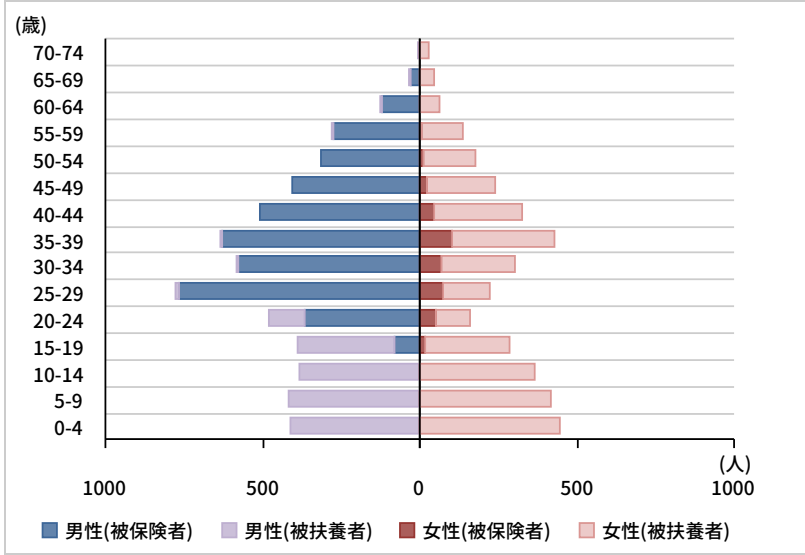
	平成30年度見込み	令和元年度見込み	令和2年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保険者を除く	4,512名 男性90.8% (平均年齢37.8歳) * 女性9.2% (平均年齢33.3歳) *	4,673名 男性90.6% (平均年齢37.9歳) * 女性9.4% (平均年齢33.3歳) *	4,680名 男性89.6% (平均年齢38.18歳) * 女性10.4% (平均年齢33.2歳) *
特例退職被保険者数	0名	0名	0名
加入者数	9,389名	9,605名	9,621名
適用事業所数	5カ所	5カ所	5カ所
対象となる拠点数	11カ所	11カ所	11カ所
保険料率 *調整を含む	95% <sub>00</sub>	95% <sub>00</sub>	92% <sub>00</sub>

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成30年度見込み		令和元年度見込み		令和2年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	0	0	0	0
	保健師等	0	0	0	0	0	0
事業主	産業医	1	0	1	0	1	0
	保健師等	6	0	8	0	8	0

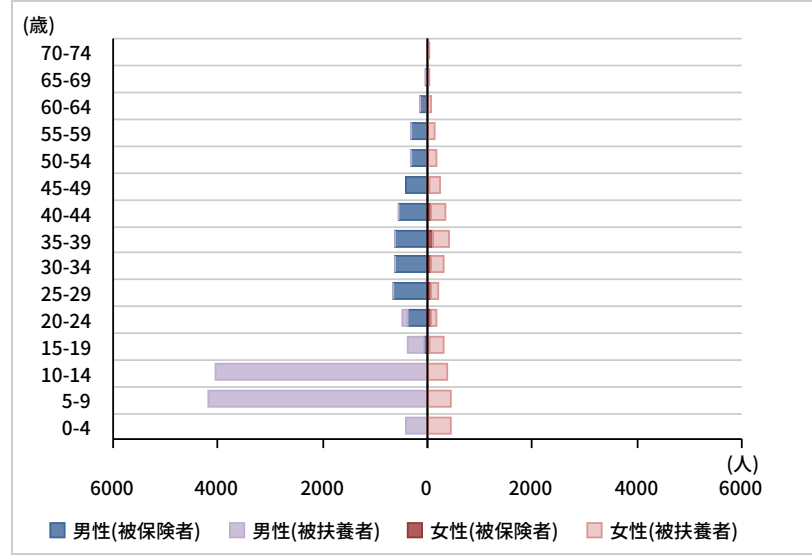
		第2期における基礎数値	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数 ÷ 特定健康診査対象者数)	全体		- / - = - %
	被保険者		- / - = - %
	被扶養者		- / - = - %
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数 ÷ 特定保健指導対象者数)	全体		- / - = - %
	被保険者		- / - = - %
	被扶養者		- / - = - %

		平成30年度見込み		令和元年度見込み		令和2年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	8,465	1,876	8,962	1,918	9,620	2,056
	特定保健指導事業費	1,950	432	2,748	588	5,200	1,111
	保健指導宣伝費	1,760	390	1,920	411	32,198	6,880
	疾病予防費	69,480	15,399	71,813	15,368	68,440	14,624
	体育奨励費	2,605	577	3,200	685	3,760	803
	直営保養所費	0	0	0	0	0	0
	その他	46,040	10,204	36,234	7,754	16,560	3,538
	小計 …a	130,300	28,879	124,877	26,723	135,778	29,012
経常支出合計 …b	2,344,553	519,626	2,281,725	488,278	2,297,783	490,979	
a/b×100 (%)	5.56		5.47		5.91		

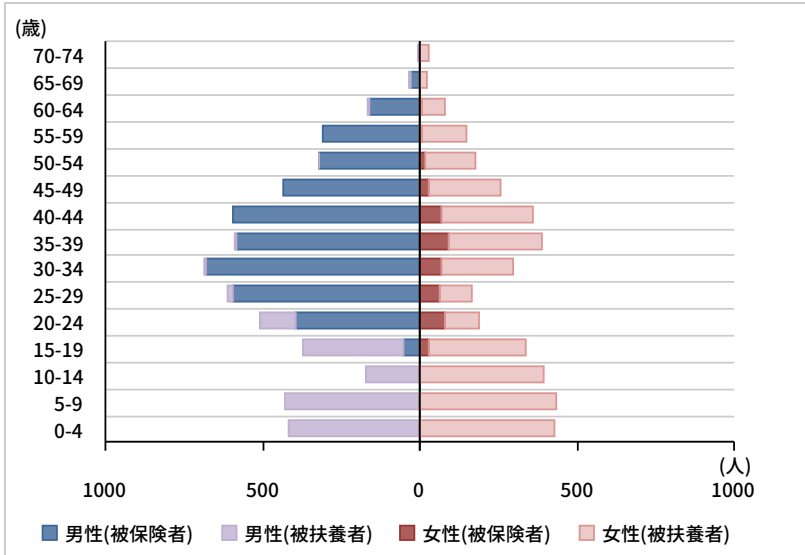
平成30年度見込み



令和元年度見込み



令和2年度見込み



## 男性（被保険者）

平成30年度見込み				令和元年度見込み				令和2年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	0人	15～19	81人	10～14	0人	15～19	65人	10～14	0人	15～19	53人
20～24	363人	25～29	763人	20～24	392人	25～29	667人	20～24	396人	25～29	594人
30～34	578人	35～39	629人	30～34	620人	35～39	619人	30～34	679人	35～39	583人
40～44	510人	45～49	404人	40～44	564人	45～49	412人	40～44	596人	45～49	432人
50～54	316人	55～59	274人	50～54	319人	55～59	293人	50～54	321人	55～59	307人
60～64	121人	65～69	30人	60～64	140人	65～69	24人	60～64	161人	65～69	30人
70～74	1人			70～74	1人			70～74	1人		

## 女性（被保険者）

平成30年度見込み				令和元年度見込み				令和2年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	0人	15～19	17人	10～14	0人	15～19	17人	10～14	0人	15～19	27人
20～24	50人	25～29	73人	20～24	65人	25～29	74人	20～24	79人	25～29	62人
30～34	67人	35～39	100人	30～34	61人	35～39	100人	30～34	70人	35～39	92人
40～44	44人	45～49	24人	40～44	53人	45～49	30人	40～44	68人	45～49	30人
50～54	9人	55～59	6人	50～54	14人	55～59	5人	50～54	17人	55～59	7人
60～64	2人	65～69	1人	60～64	3人	65～69	0人	60～64	4人	65～69	0人
70～74	0人			70～74	0人			70～74	0人		

## 男性（被扶養者）

平成30年度見込み				令和元年度見込み				令和2年度見込み			
0～4	410人	5～9	419人	0～4	417人	5～9	4,190人	0～4	415人	5～9	429人
10～14	385人	15～19	308人	10～14	4,050人	15～19	308人	10～14	174人	15～19	320人
20～24	116人	25～29	14人	20～24	118人	25～29	8人	20～24	112人	25～29	15人
30～34	4人	35～39	4人	30～34	2人	35～39	3人	30～34	3人	35～39	3人
40～44	0人	45～49	0人	40～44	1人	45～49	0人	40～44	0人	45～49	0人
50～54	0人	55～59	3人	50～54	1人	55～59	1人	50～54	1人	55～59	0人
60～64	4人	65～69	6人	60～64	5人	65～69	4人	60～64	5人	65～69	4人
70～74	5人			70～74	5人			70～74	5人		

## 女性（被扶養者）

平成30年度見込み				令和元年度見込み				令和2年度見込み			
0～4	443人	5～9	418人	0～4	455人	5～9	434人	0～4	428人	5～9	437人
10～14	367人	15～19	267人	10～14	383人	15～19	283人	10～14	396人	15～19	307人
20～24	106人	25～29	148人	20～24	101人	25～29	129人	20～24	108人	25～29	102人
30～34	236人	35～39	327人	30～34	225人	35～39	302人	30～34	226人	35～39	296人
40～44	278人	45～49	216人	40～44	283人	45～49	216人	40～44	290人	45～49	229人
50～54	163人	55～59	133人	50～54	162人	55～59	129人	50～54	158人	55～59	144人
60～64	64人	65～69	48人	60～64	63人	65～69	34人	60～64	72人	65～69	25人
70～74	31人			70～74	32人			70～74	29人		

### 基本情報から見える特徴

1. 比較的規模の小さな健保組合（被保険者数4千5百名、加入者数9千3百名）である。
2. 拠点が愛知県7ヶ所の他に佐賀県、福岡県、岩手県にもあり、愛知県が全体の85%と集中している。
3. 被保険者は20歳代後半から30歳代が中心をなしている。
4. 当健保組合は職員が少なく、医療専門職も不在である。
5. グラフの人数は平成30年3月時点の人数である。

## STEP 1-2 保健事業の実施状況

### 保健事業の整理から見える特徴

1. 健康診査受診結果で糖尿病のリスクが高い人に受診勧奨を実施した。
2. 保健事業の周知が十分にできていない。
3. レセプトや健康診断データを活用し、効果的かつ効率的な保健事業がまだまだ十分にできていない。

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

#### 加入者への意識づけ

#### 個別の事業

特定健康診査事業	特定健康診査
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知
保健指導宣伝	機関紙発行
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	健康図書配付
保健指導宣伝	電話健康相談
疾病予防	人間ドック・脳ドック
疾病予防	家庭用常備薬
疾病予防	インフルエンザ予防接種
疾病予防	事業所定期検診の一部補助
疾病予防	共同巡回健診
体育奨励	潮干狩り
体育奨励	施設利用補助
その他	体育館

#### 事業主の取組

1	定期健康診断
2	駅伝大会

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備													
加入者への意識づけ													
個別の事業													
特定健康診査事業	3	特定健康診査	【目的】特定健康診査の受診率向上、加入者の健康維持。 【概要】婦人科健診との同時実施や、居住地域での巡回型の健診を導入し、実施率向上を図る。	被保険者被扶養者	全て	男女	40～74	基準該当者	8,465	定期健康診断、人間ドック、共同巡回健診等で通年受診可能。 被保険者は事業主健診として実施。	人間ドック、共同巡回健診を中心に契約施設での健診受診を推進。 共同巡回健診については、対象者宛に自宅へ案内を郵送。	健診無関心層への受診促進。巡回健診や契約施設が少ない地域での訴求力の弱さ。	4
	特定保健指導事業	4	特定保健指導	【目的】特定保健指導の実施率向上、生活習慣病リスク保有者の生活習慣・健康状態の改善。 【概要】メタボリックシンドロームの減少を目的に保健指導を実施。	被保険者被扶養者	全て	男女	40～74	基準該当者	1,950	実施者21人。	被保険者は事業所の専門職と連携しながら、モチベーションの高い加入者から優先的に実施。被扶養者は利便性の高い巡回型の保健指導を導入し、参加機会を増加。	関心がまだ低いので制度の認知度向上を更に図る。今後も対象とする時期をずらして実施。
保健指導宣伝	8	後発医薬品の差額通知	【目的】使用促進、調剤医療費の適正化。 【概要】300円以上削減ができる者に対して差額通知を配布(1回/年)。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	428	後発医薬品の差額通知を1,035人に配布。	差額通知書を12月中旬に配布し、平成29年1月から4月までの4か月間で、2,059千円の効果が出た。	関心がまだ低いので制度の認知度向上を更に図る。今後も対象とする時期をずらして実施。	4
	5	機関紙発行	【目的】被保険者に「病気・けがをしたとき」「出産したとき」など制度の内容を理解してもらう。 【概要】健康保険のおしり(平成27年度版)を発行。	被保険者被扶養者	全て	男女	18～74	全員	260	発行部数5,000部。	前回発行は平成28年度版であったため、その後の制度変更などを再度PRできた。	制度変更の内容をわかりやすく表現。	4
	5	医療費通知	【目的】自己が使用した医療費の明細を定期的に配布。 【概要】レセプト単位で総医療費、健保組合の負担額、自己負担額を記載。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～65	全員	248	年4回、14,000部配布。	定期的に加入者に通知できた。	関心が低い。	5
	5	健康図書配付	【目的】健康情報図書配付で健康づくりを促進。出産育児図書配付で主産育児に備える。 【概要】月刊誌「へるすあっぷ21」を各事業所に配付。「すくすく赤ちゃん」を第1子出産のお母さんに配付。	被保険者被扶養者	全て	男女	18～65	基準該当者	274	「へるすあっぷ21」を年間120冊配付。「すくすく赤ちゃん」を年間90冊配付。	「へるすあっぷ21」は最新情報を提供。「すくすく赤ちゃん」はお母さんの出産育児の不安や悩みを解消。	健康図書を配布しているものの、どの程度役立っているのかわからない。	5
	6	電話健康相談	【目的】24時間健康に関する相談に対応することで突発的な加入者の健康に関する問い合わせにも対応。 【概要】フリーダイヤルで24時間対応。外部業者に委託(含むメンタル相談)。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	1,335	相談件数122件。	機関紙「健保からのお知らせ」等でPR。	—	4
	疾病予防	3	人間ドック・脳ドック	【目的】疾病の早期発見・早期治療。 【概要】30歳以上の被保険者及び被扶養者を対象、年1回受診者負担5000円で設定。	被保険者被扶養者	全て	男女	30～74	全員	42,891	受診者1,634人。 通年で受診できた。	お知らせ通知により、受診者が120人増えた。	利用者の固定化。
3		家庭用常備薬	【目的】初期症状の緩和、通院日数の削減。 【概要】家庭用常備薬購入費の一部補助。	被保険者被扶養者	全て	男女	18～74	全員	5,550	年2回実施。のべ3,606人利用。	1回当たり4割強の人が利用。申込書を大幅に見直し、加入者にわかりやすくした。	利用者の固定化。	4
3		インフルエンザ予防接種	【目的】インフルエンザによる重症化防止。 【概要】インフルエンザ予防接種費用を被保険者のみ補助額を引下げ、被保険者1,300円/人、被扶養者1,000円/人を補助。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～64	全員	6,338	接種4,316人。	被保険者は希望者に対し事業所で接種。被扶養者は、愛知県内の場合は接種補助券を配布。補助券が利用できない場合は償還払い。	ワクチン不足により、地域の医療機関での接種ができないことがあった。	4
3		事業所定期検診の一部補助	【目的】定期検診の内容充実。 【概要】事業所定期健診として法定項目以外に設定する健診項目を対象に補助。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	8,732	補助対象者2,006人。	制度の周知と理解の促進。	—	4
3		共同巡回健診	【目的】自宅から近い所で受診可能なため被扶養者の女性に限定して受診率向上が望める。 【概要】検診車が各地域を巡回して健診を実施。	被扶養者	一部の事業所	女性	40～74	全員	3,426	受診者145人。	自宅から近い場所で受診ができる。10月末受診者に案内を再度送付。	都合の良い日に、近くの会場で定員オーバーにより受診できない時があった。	4

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
体育奨励	8	潮干狩り	【目的】 職場・家族の親睦を深め、健康づくりに繋がる。 【概要】 健保・事業主・労組で共同開催を実施。参加料は無料。	被保険者 被扶養者	一部の 事業所	男女	0 ～ 74	全員	1,342	貝毒により中止。	—	利用者の固定化。	1
	8	施設利用補助	【目的】 職場・家族の親睦を深め、健康づくりに繋がる。 【概要】 利用補助券を提供。	被保険者 被扶養者	一部の 事業所	男女	0 ～ 74	全員	760	利用者数3,168人	—	利用者の固定化。	4
その他	8	体育館	【目的】 健康保持増進のための施設。 【概要】 愛知県額田郡幸田町のハッピネス（施設名称）でトレーニングジム、バドミントン・バレーボールなどが行えるアリーナ、屋外テニスコートが利用できる。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ～ 74	全員	16,031	利用者数14,811人。	—	利用者の固定化。	4

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 訪問指導 8. その他



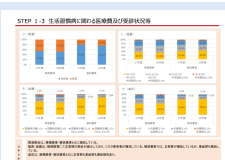



注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同 実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
<b>事業主の取組</b>								
定期健康診断	【目的】加入者の健康維持、特定健康診査の受診率向上。 【概要】事業主が行う定期健康診断と併せて共同実施。	被保険者	男女	18 ～ 74	被保険者の実施率98.3%。	就業時間中に実施。	—	有
駅伝大会	【目的】競技者の運動能力を高め、従業員・家族の親睦を深める。 【概要】従業員・子会社従業員の競技者を工場別チーム対抗戦で競技する。	被保険者	男女	18 ～ 64	平成27年12月13日に開催。 56チーム336人の競技者と応援者を含め956人が参加。	職場や家族の参加で、チームワークや親睦が図られる。	—	有



# STEP 1-3 基本分析

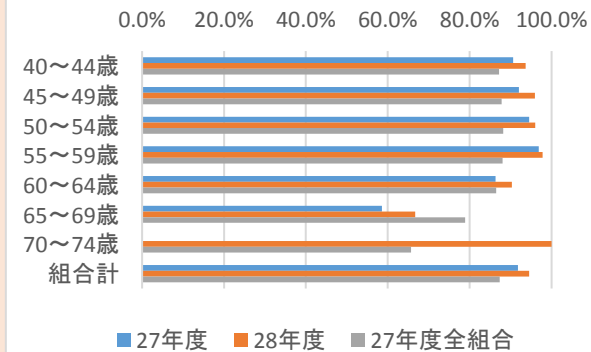
## 登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		特定健診・保健指導の実施状況等	特定健診分析	-
イ		診療区分別・傷病分類別・年代別医療費	医療費・患者数分析	-
ウ		生活習慣病に関わる医療費及び受診状況等	健康リスク分析	-
エ		悪性新生物	医療費・患者数分析	-
オ		後発薬	後発医薬品分析	-
カ		喫煙の状況	健康リスク分析	-

# STEP 1 - 3 特定健診・保健指導の実施状況等

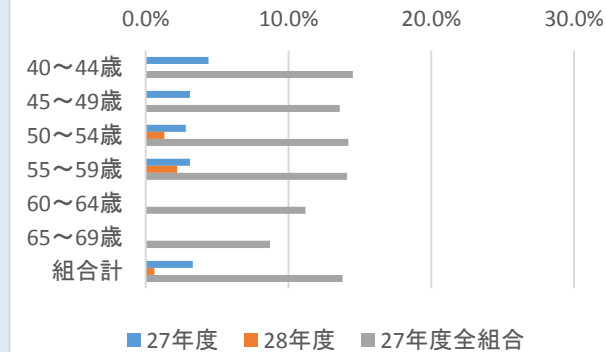
## 【特定健診実施率】

ア. (被保険者)



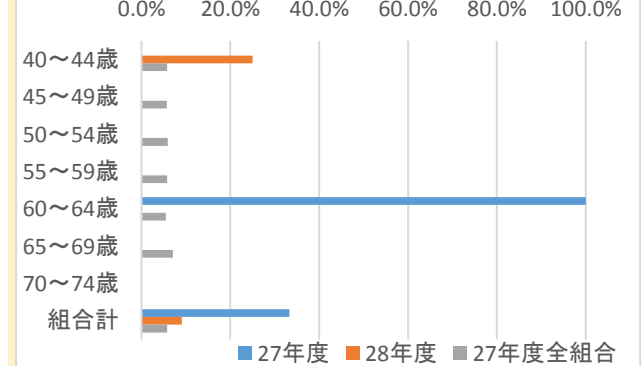
## 【特定保健指導実施率 被保険者】

ウ. (積極的支援)

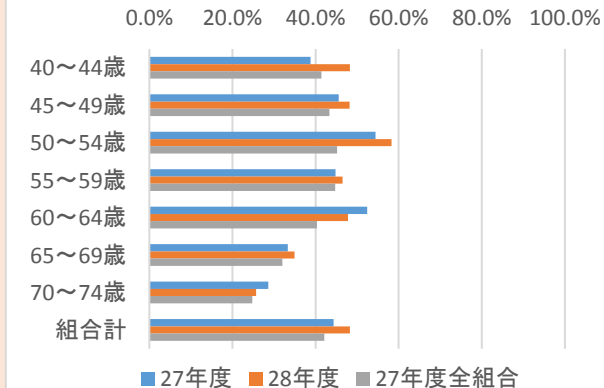


## 【特定保健指導実施率 被扶養者】

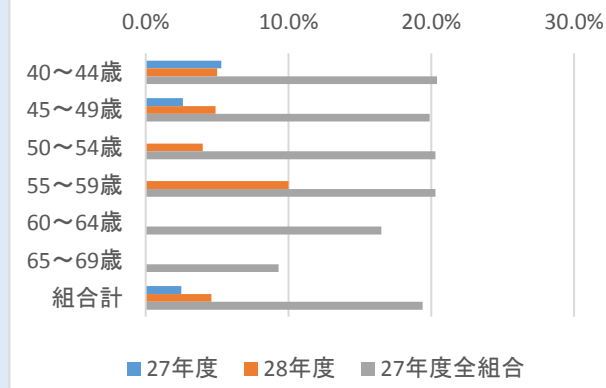
オ. (積極的支援)



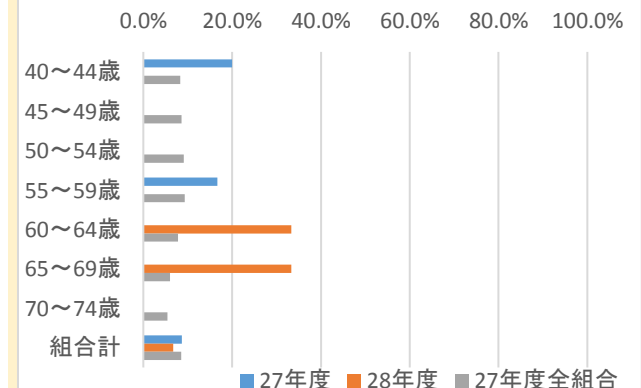
イ. (被扶養者)



エ. (動機付け支援)



カ. (動機付け支援)



アイ

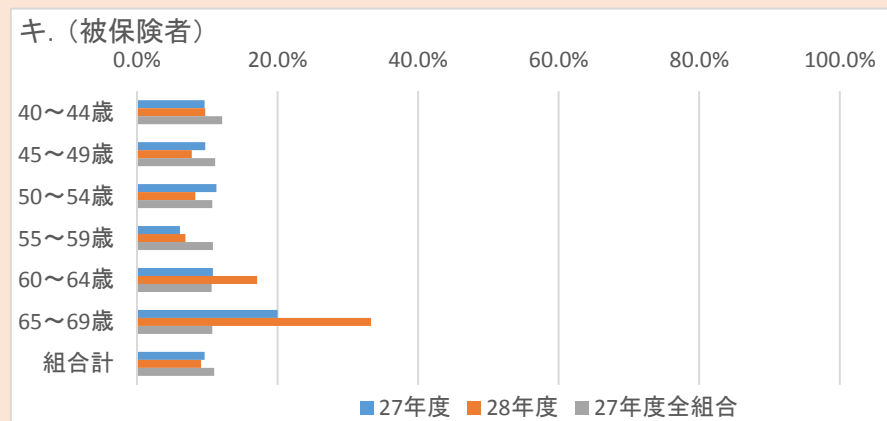
被保険者は全年代において高い受診率が向上しているが、一定数の未受診者がいるため、健診受診及びデータ回収状況の確認が必要である。被扶養者も向上傾向にあり、他健保よりも高いが、2人に1人は未受診であり、更なる受診率向上を目指す必要がある。

ウ  
エ  
オ  
カ

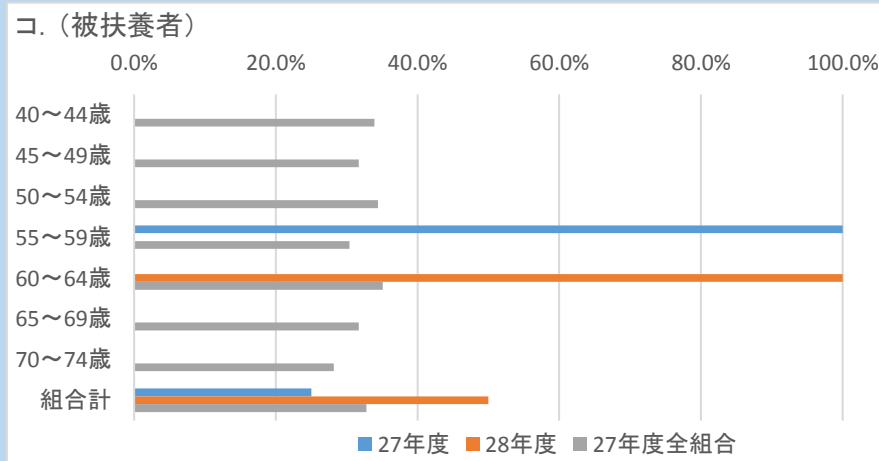
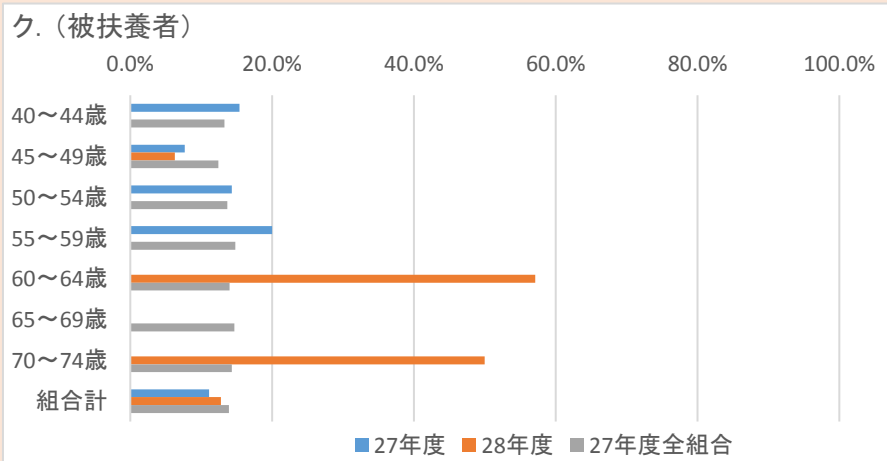
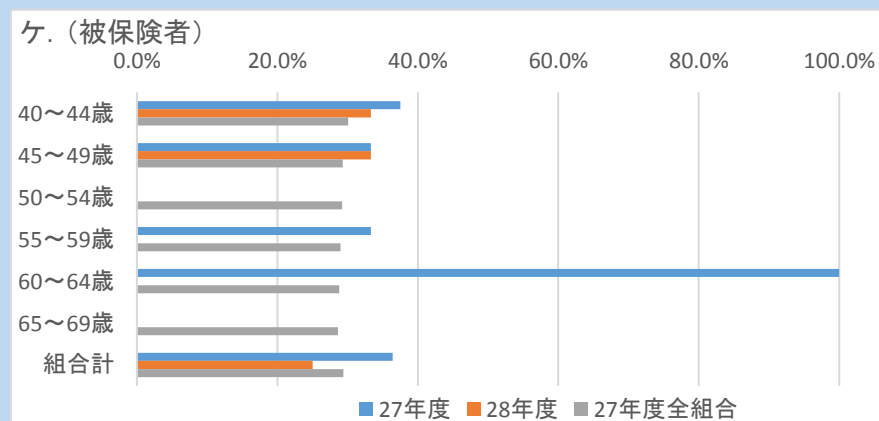
被保険者・被扶養者共に実施率が低い。事業主との協力体制の構築等、実施方法の見直しが必要である。

# STEP 1 - 3 特定健診・保健指導の実施状況等

【内臓脂肪症候群該当者の改善率(※1)】



【特定保健指導による改善率(※2)】



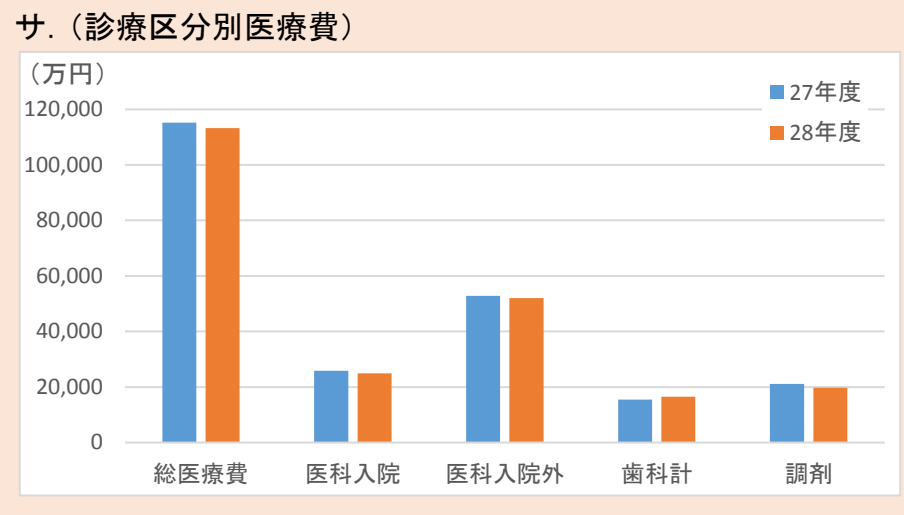
(※1) 前年度の内臓脂肪症候群該当者のうち、内臓脂肪症候群該当者・予備群ではなくなった者の割合

(※2) 前年度の特定保健指導の利用者数のうち、特定保健指導対象者でなくなった者の割合

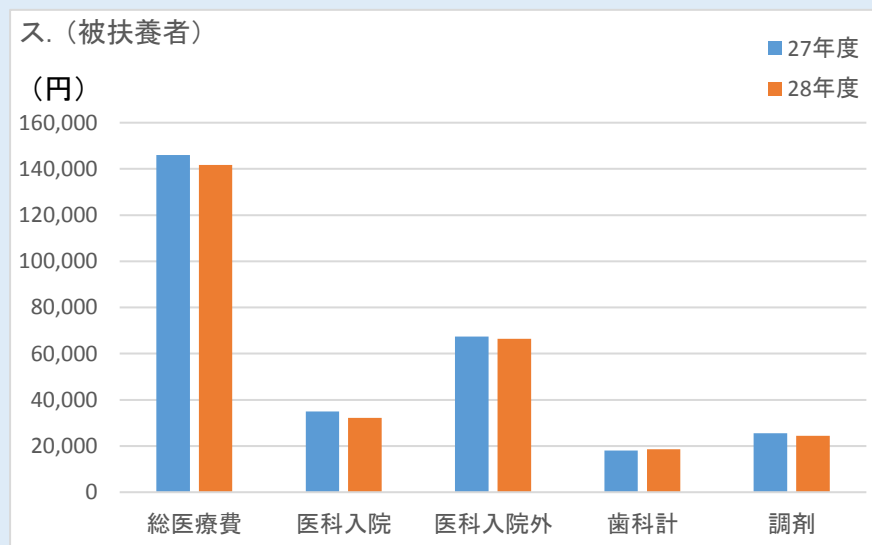
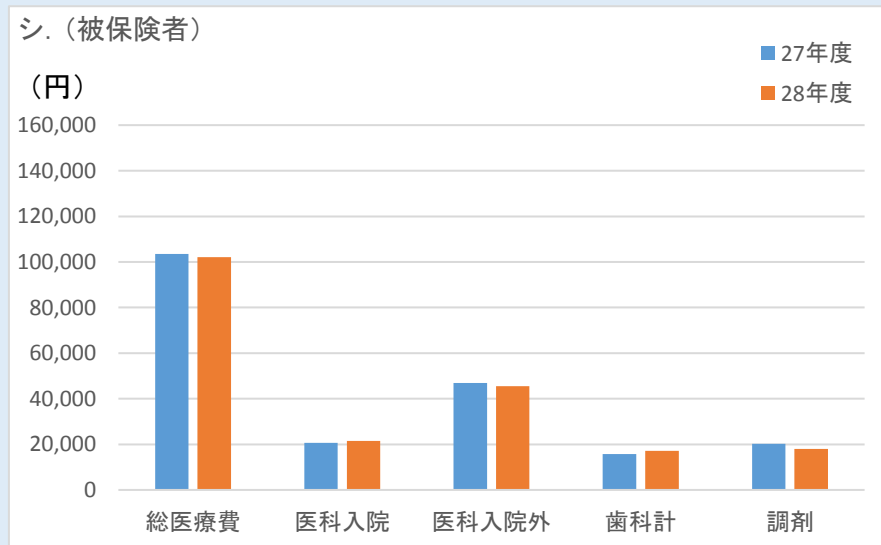
キ  
ク 前年度の内臓脂肪症候群該当者のうち、翌年度に改善した者の割合は20%未満であり、他健保よりも低い。毎年新たに該当者になる者も一定数存在することも考慮し、改善率の向上が必要である。

ケ  
コ 被保険者は約25%、被扶養者では約50%の特定保健指導利用者が改善している。実施することで一定の効果が出ており、実施者数を増やしていく必要がある。

# STEP 1 -3 診療区分別・傷病分類別・年代別医療費



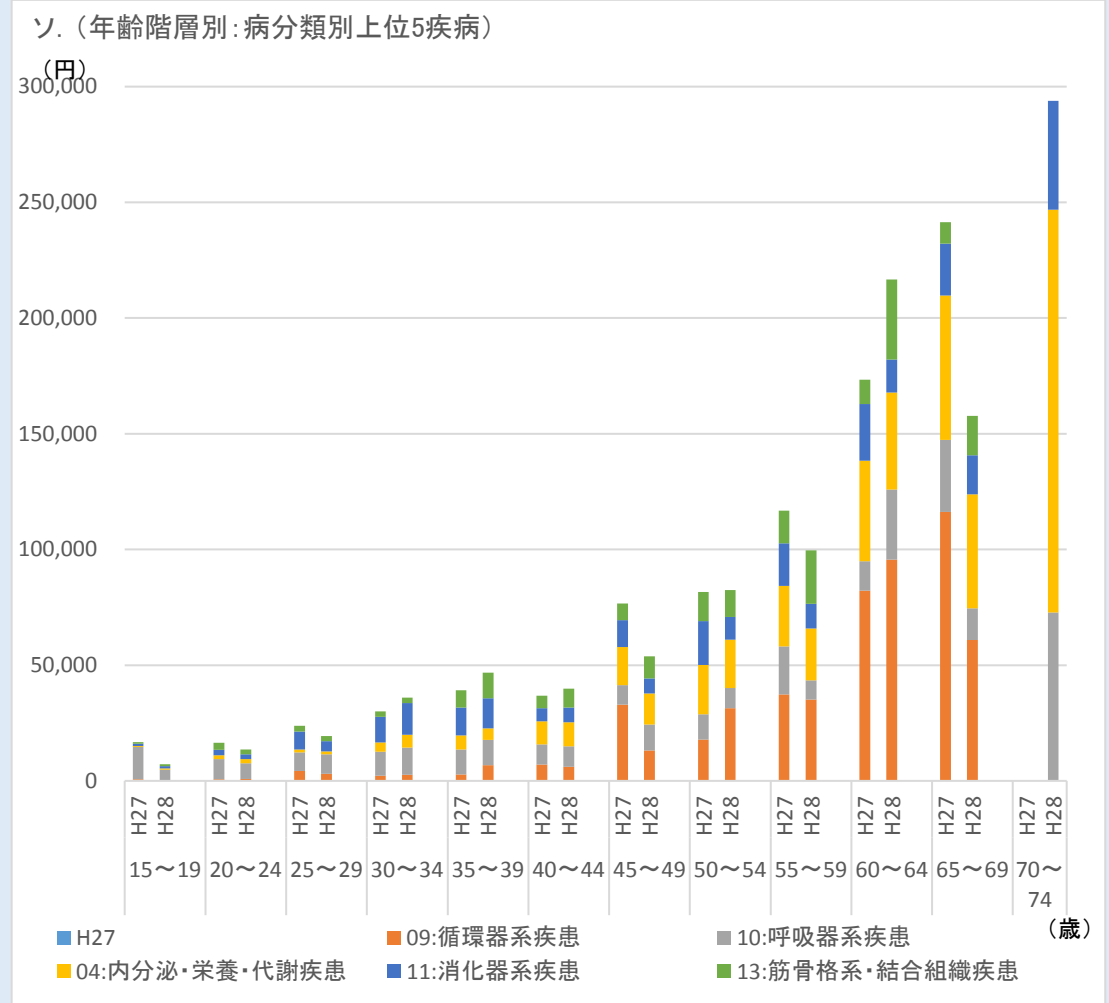
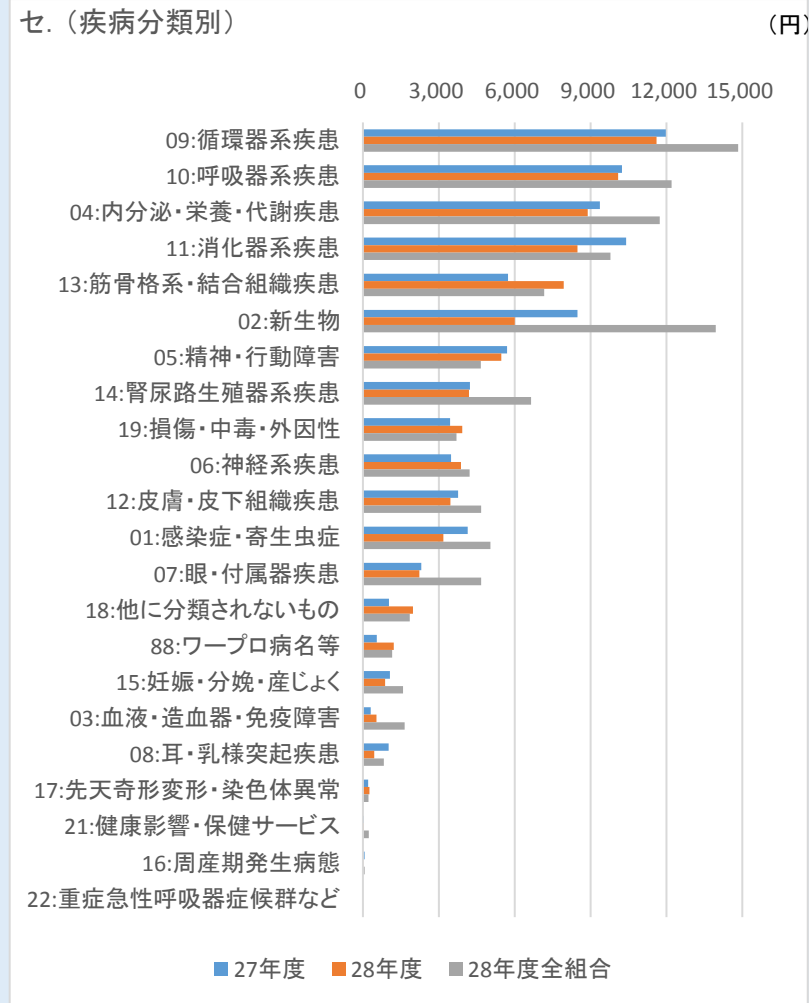
## 【診療区分別一人あたり医療費】



サシ 総医療費は微減している中、歯科のみ増加傾向がある。一人あたり医療費でも、被保険者・被扶養者共に歯科が増加している。また、被保険者では医科入院が増加していることから、重症化の傾向がある。

# STEP 1-3 診療区分別・傷病分類別・年代別医療費

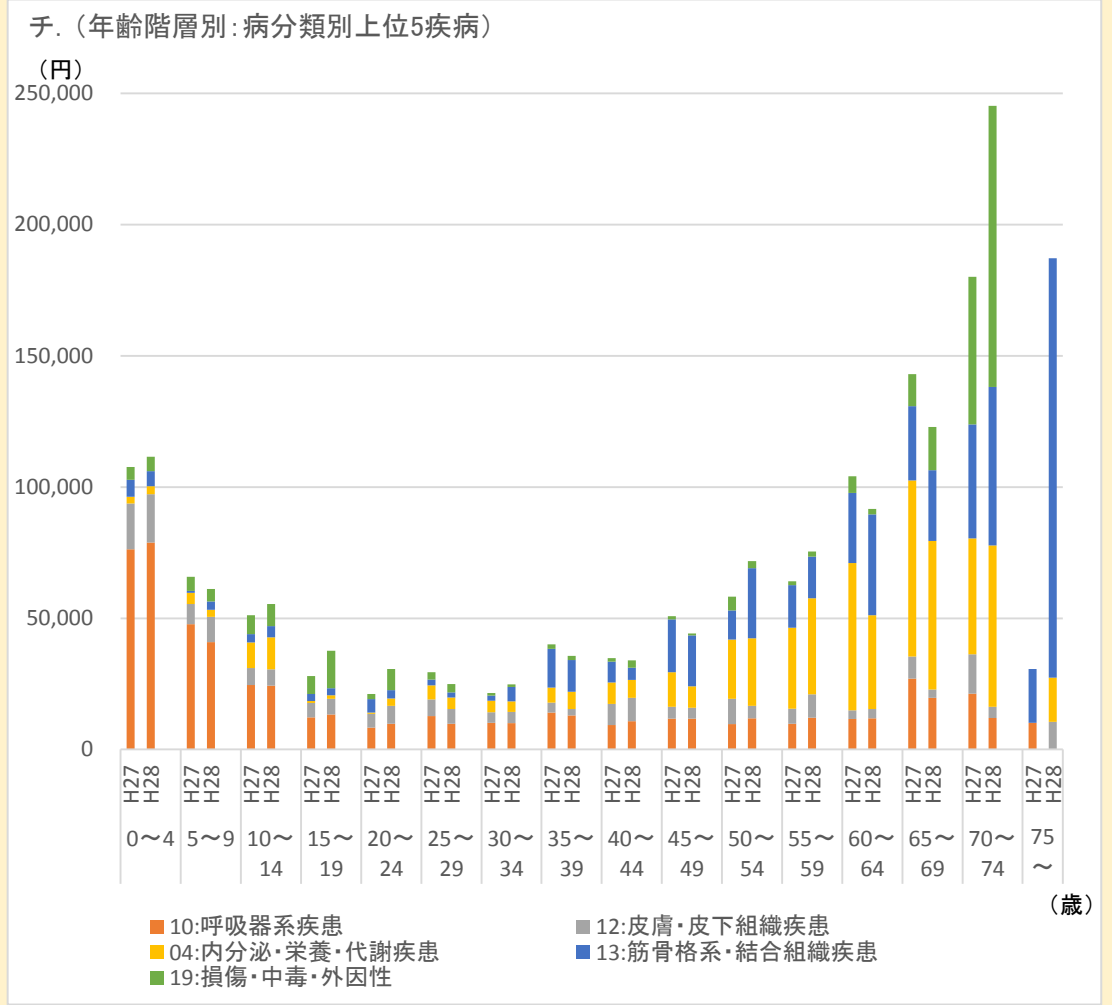
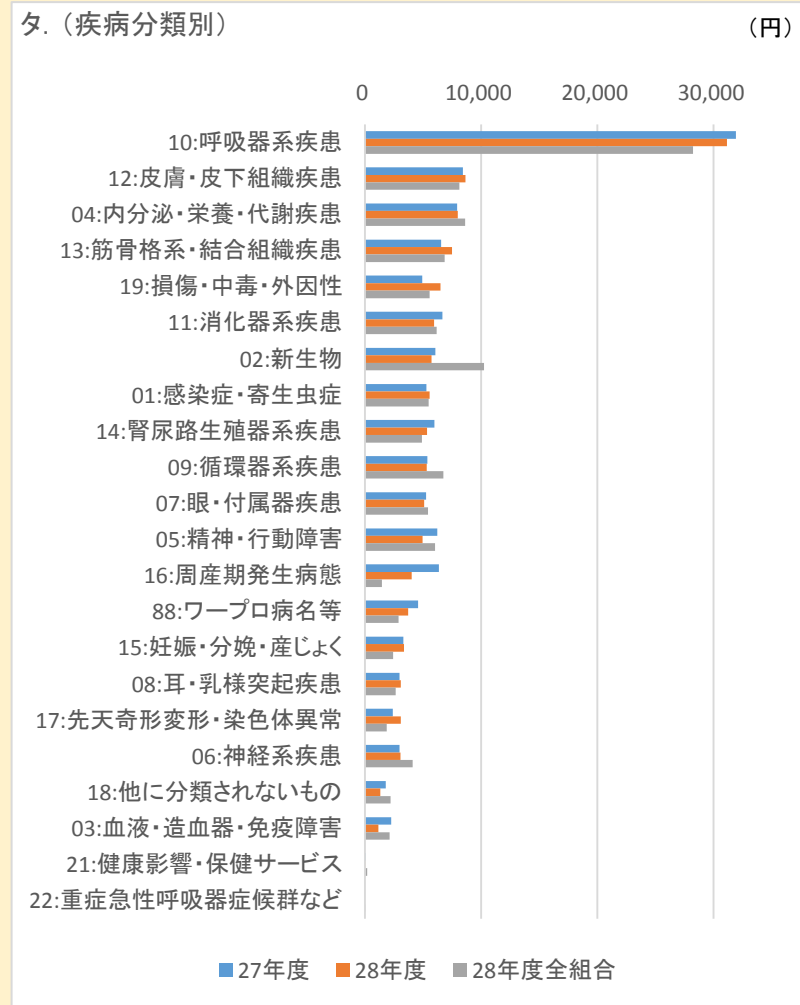
## 【被保険者一人あたり医療費\_医科計】



セ ソ 高血圧等の「循環器系疾患」、風邪等の「呼吸器系疾患」、糖尿病等の「内分泌・栄養・代謝疾患」が上位を占めている。「消化器系疾患」と「新生物」が減少している中、「筋骨格系・結合組織疾患」にて増加傾向がある。全体として他健保よりも低い傾向あり。一人あたり医療費の上位疾病を年齢階層別に見ると、30代と40代前半といった若年層が前年比で増加している。また、「循環器系疾患」は40代後半から、「内分泌・栄養・代謝疾患」は、50代から増加している。

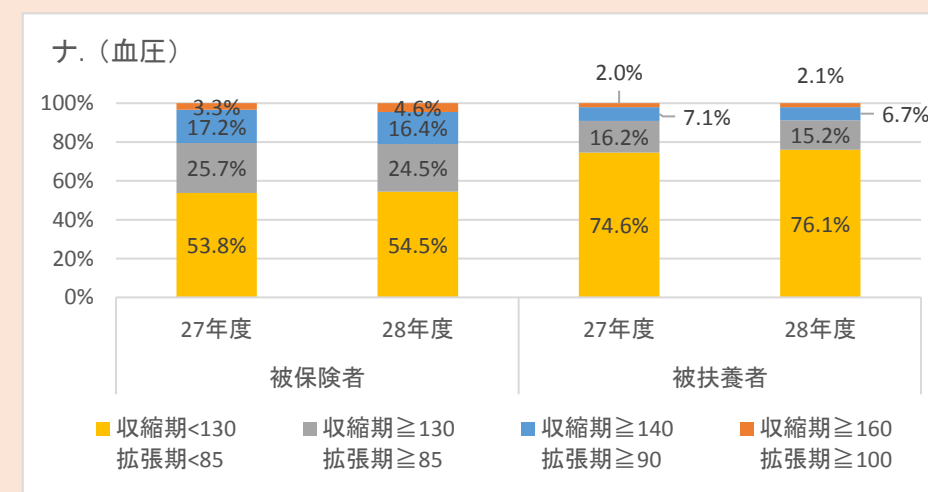
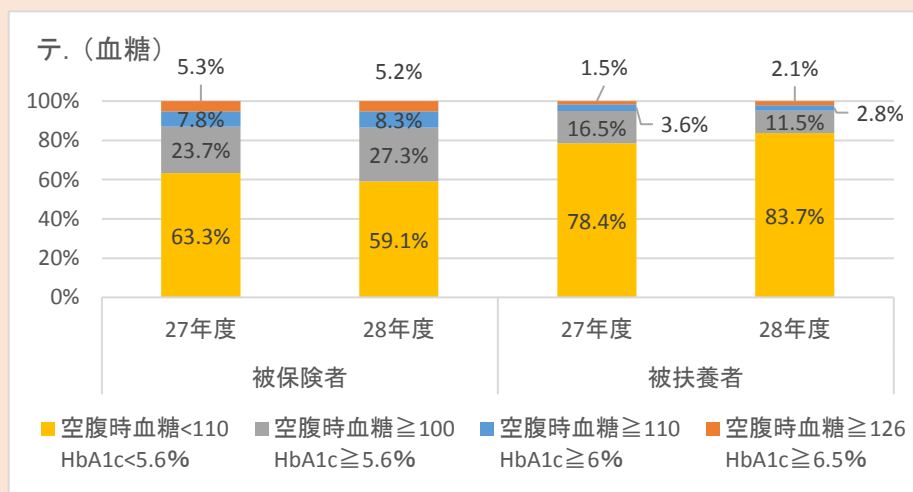
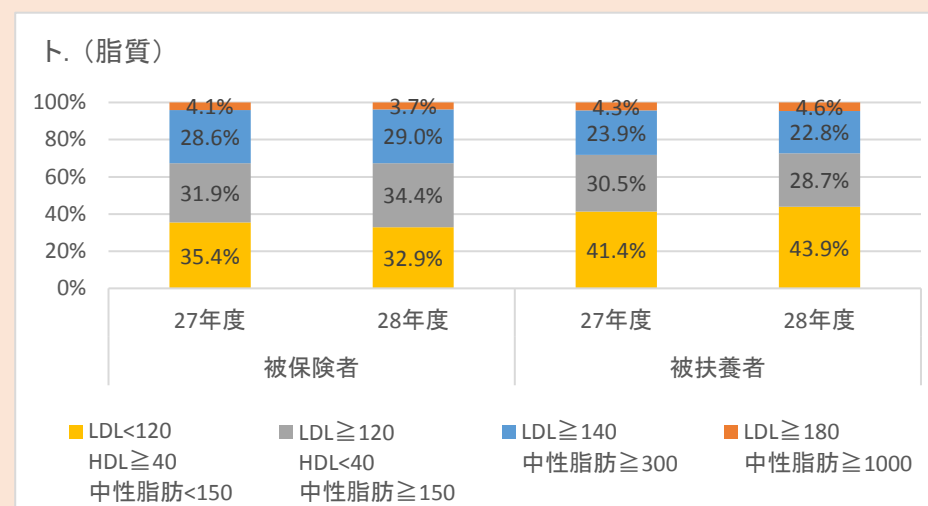
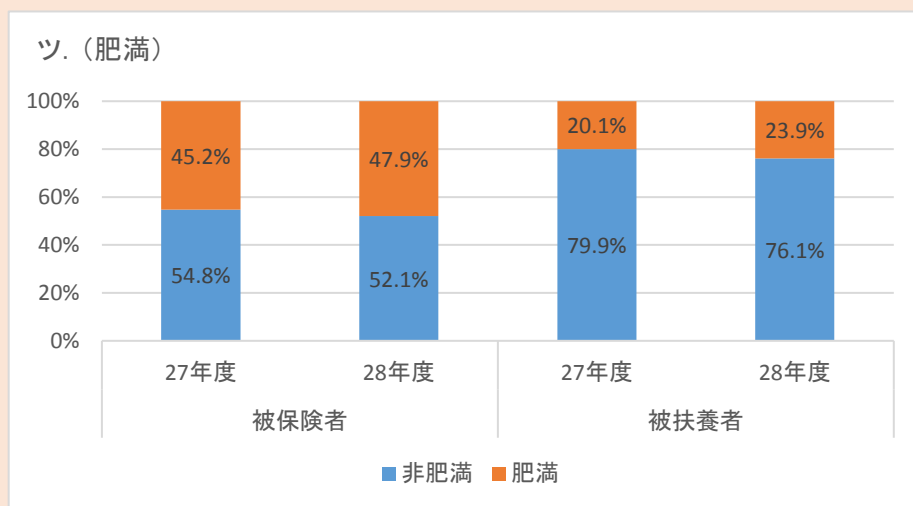
# STEP 1-3 診療区分別・傷病分類別・年代別医療費

## 【被扶養者一人あたり医療費\_医科計】



「呼吸器系疾患」が一人あたり約30,000円と特に高く、続いて「皮膚・皮下組織疾患」「内分泌・栄養・代謝疾患」の順になっており、「筋骨格系・結合組織」「損傷・中毒・外因性」にて増加傾向がある。また、一人あたり医療費の上位疾病を年齢階層別に見ると、10歳未満の「呼吸器系疾患」が高く、「内分泌・栄養・代謝疾患」は50代から急増している。

# STEP 1-3 生活習慣病に関わる医療費及び受診状況等



ツ  
テ  
ト  
ナ

肥満割合は、被保険者・被扶養者ともに増加している。

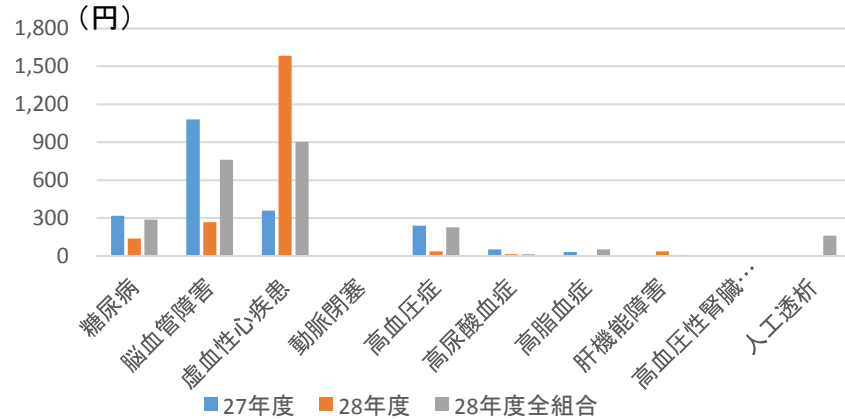
脂質・血糖は、被保険者にて正常群の割合が減少しており、リスク保有者が増加している。被扶養者では、正常群が増加しているが、重症群も増加している。

血圧は、被保険者・被扶養者ともに正常群も重症群も増加傾向あり。

# STEP 1-3 生活習慣病に関わる医療費及び受診状況等

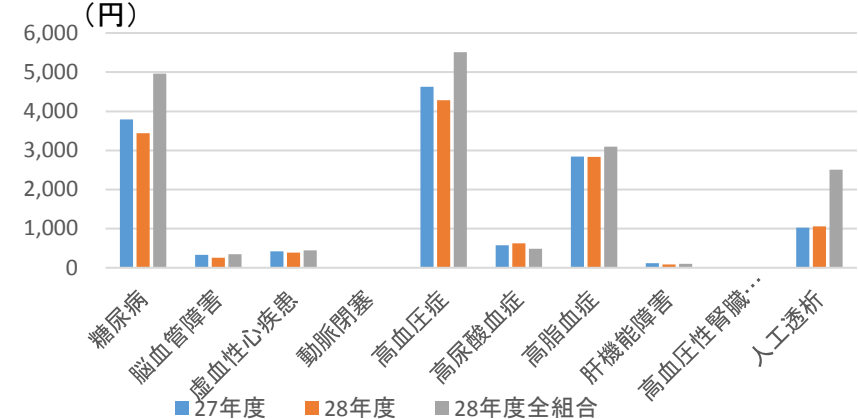
【生活習慣病における一人あたり医療費\_医科入院】

二. (被保険者)

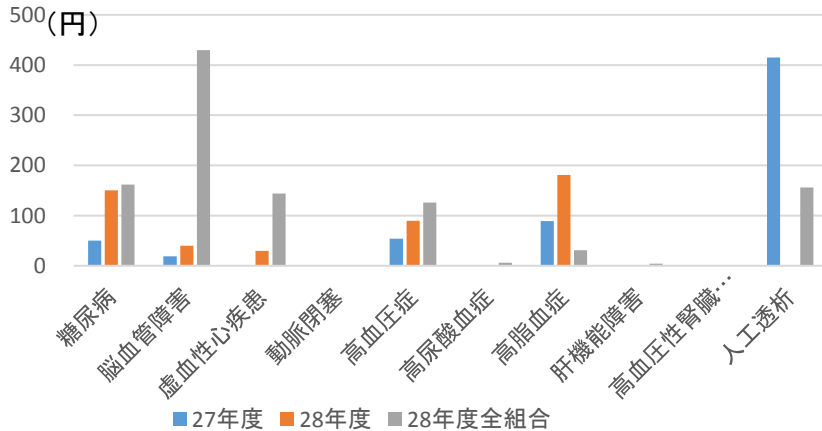


【生活習慣病における一人あたり医療費\_医科入院外】

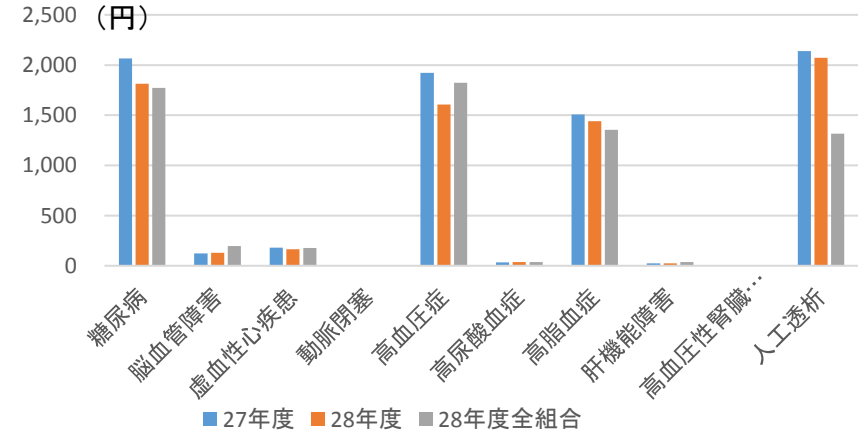
ネ. (被保険者)



又. (被扶養者)



人. (被扶養者)



二  
又  
ネ

被保険者では、入院外が全体的に減少傾向にある一方、入院においては「虚血性心疾患」が大きく増加している。  
被扶養者では、「人工透析」が減少したものの、入院における「糖尿病」や高脂血症が増加しており、今後さらに重症化する可能性も考えられる。

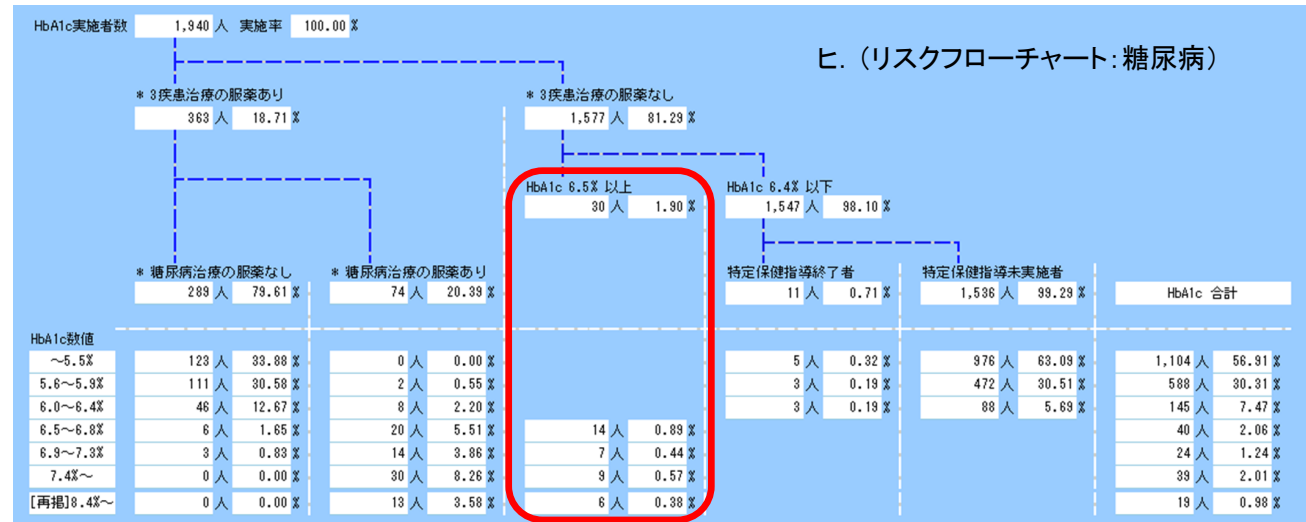


# STEP 1-3 生活習慣病に関わる医療費及び受診状況等

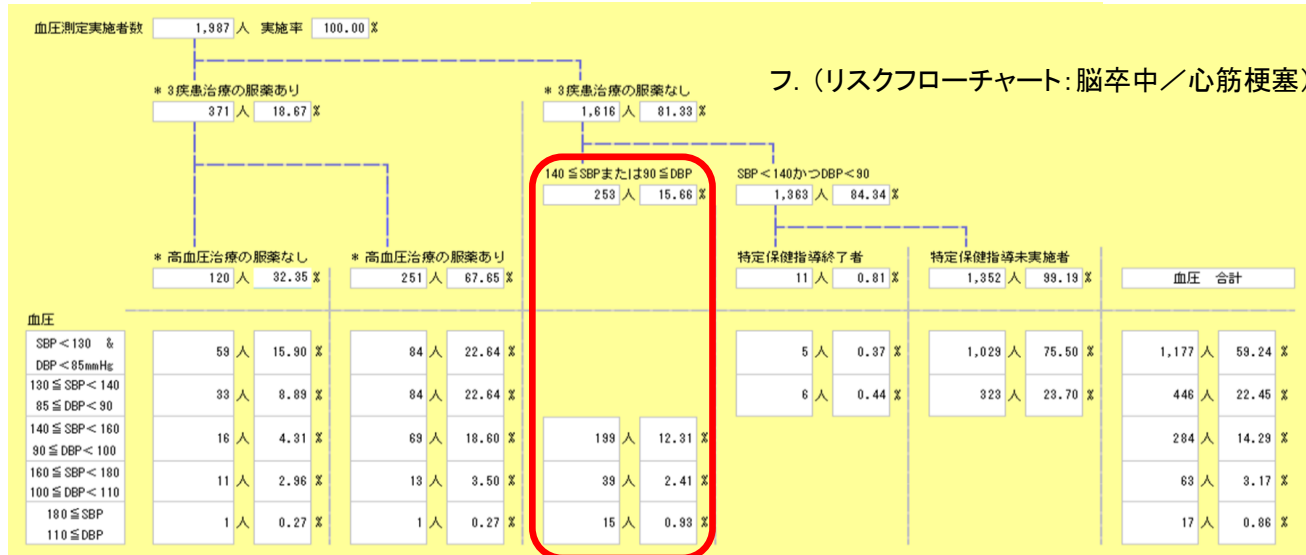
## ハ. (生活習慣病・健診レベル判定と医療受診状況 平成28年度)



## ヒ. (リスクフローチャート: 糖尿病)



## フ. (リスクフローチャート: 脳卒中/心筋梗塞)

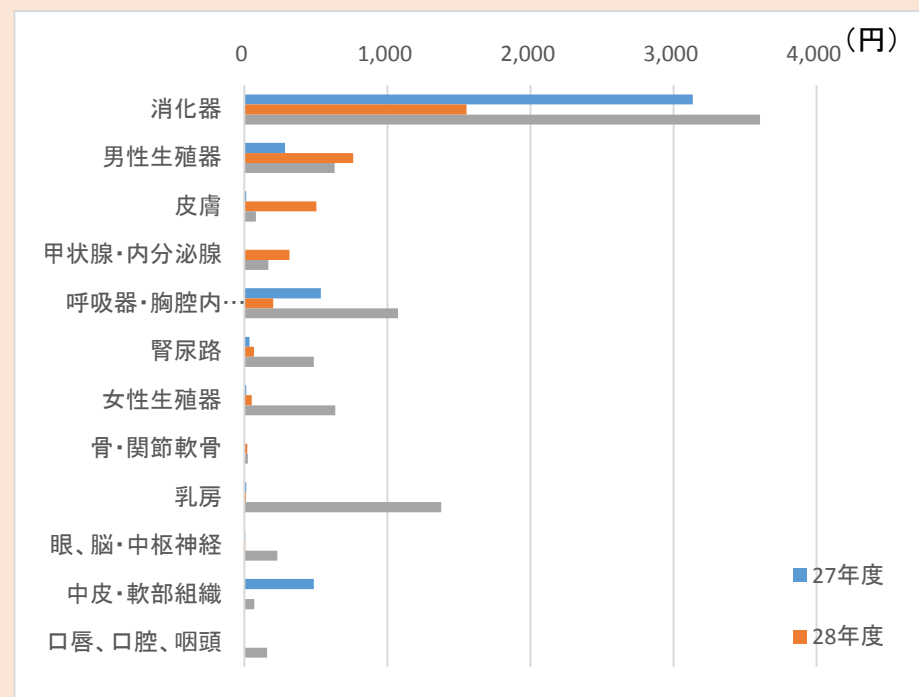


ハ 生活習慣病に関連する健診結果が受診勧奨基準値以上である者のうち、受診をしていない者が6割以上(195名)もいる。重症化予防のために、早期受診が望まれる。

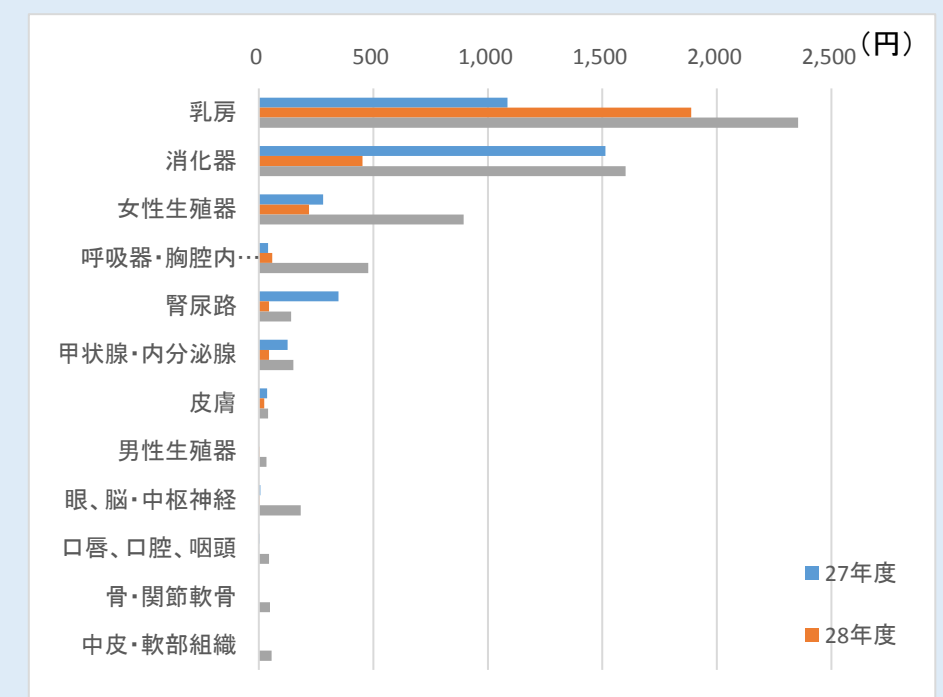
ヒフ HbA1c6.5%以上で生活習慣病に関連するレセプトがない者が30名いる。7.4%を超える者も複数名おり、重症化のリスクが非常に高い。またレセプトはあっても7.4%を超える者も多く、コントロール不良者が存在する可能性もある。

# STEP 1-3 悪性新生物

へ. (悪性新生物における一人あたり医療費\_被保険者)



ホ. (悪性新生物における一人あたり医療費\_被扶養者)



へ

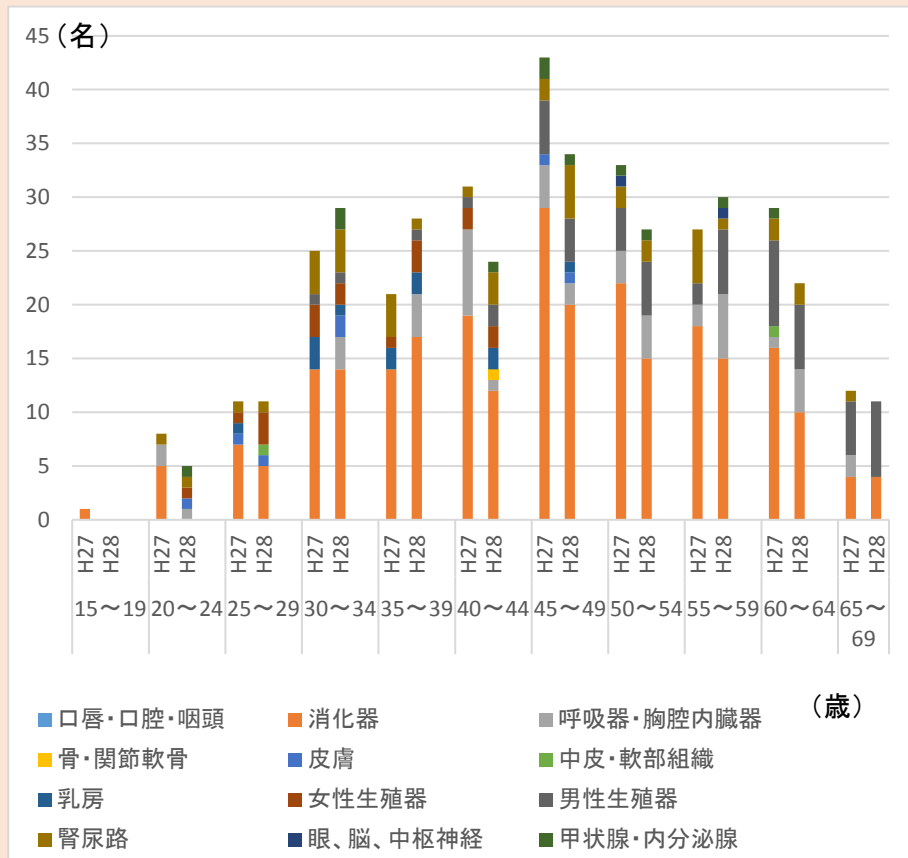
被保険者の悪性新生物に関する一人あたり医療費は、「消化器」が最も高いが減少傾向にあり、他健保と比べても低い。また、「男性生殖器」、「皮

ホ

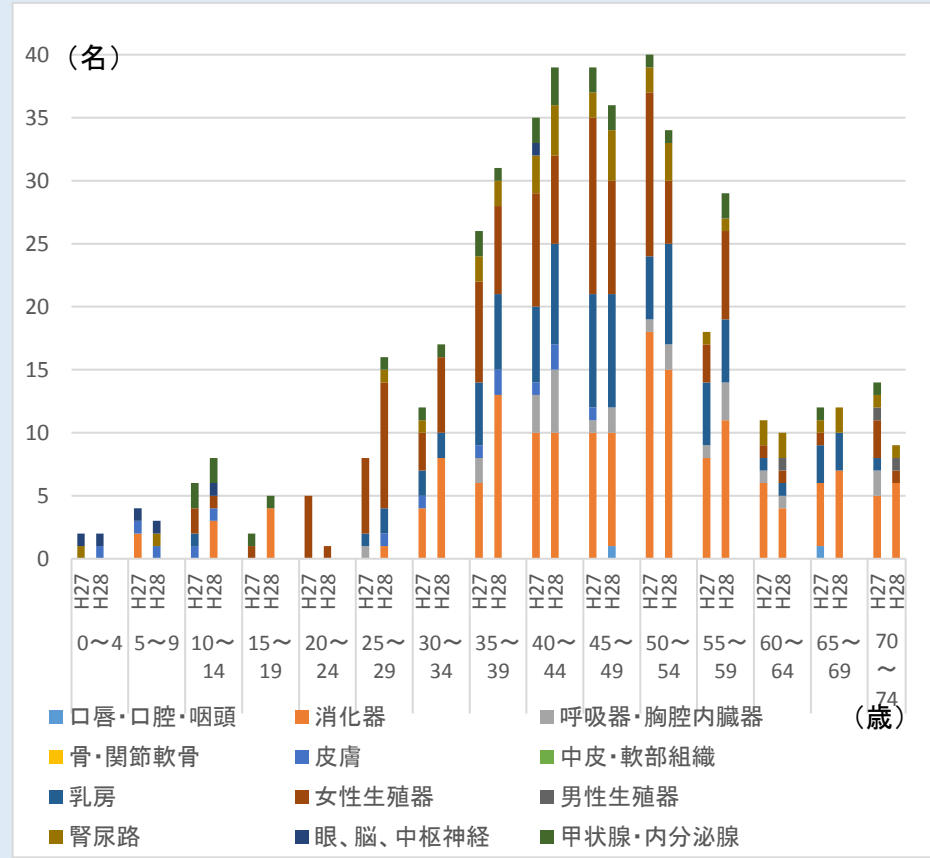
被扶養者は、「消化器」が減少している。また、他健保よりも低いものの、「乳房」が増加している。

# STEP 1-3 悪性新生物

マ. (悪性新生物における年齢階層別有病者数\_被保険者)



ミ. (悪性新生物における年齢階層別有病者数\_被扶養者)

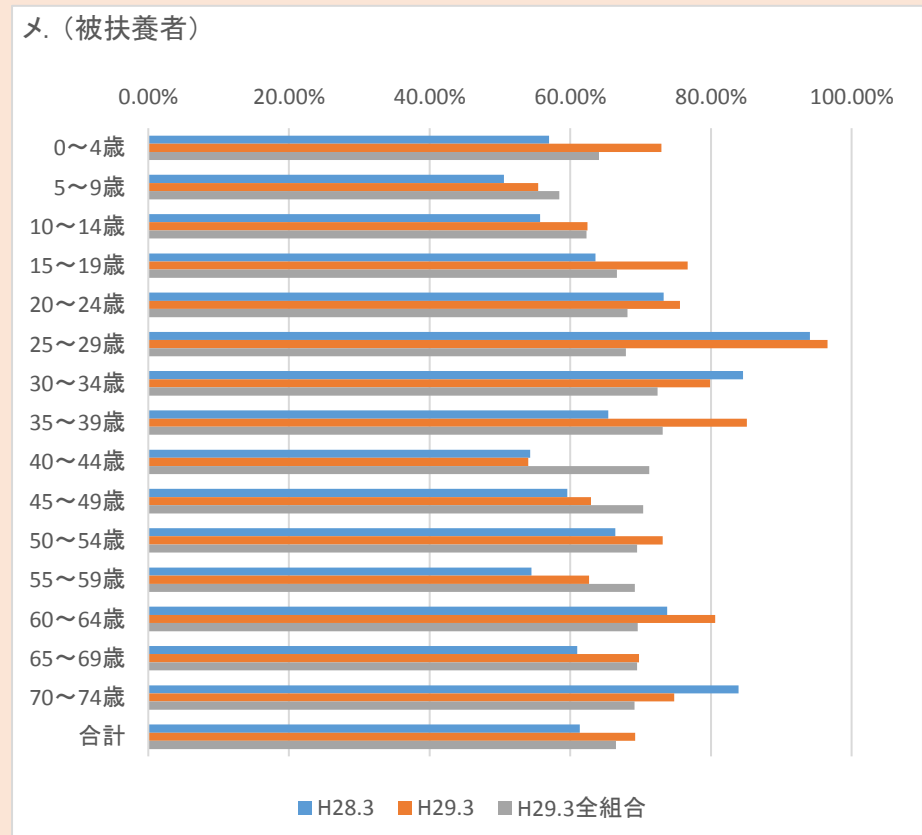
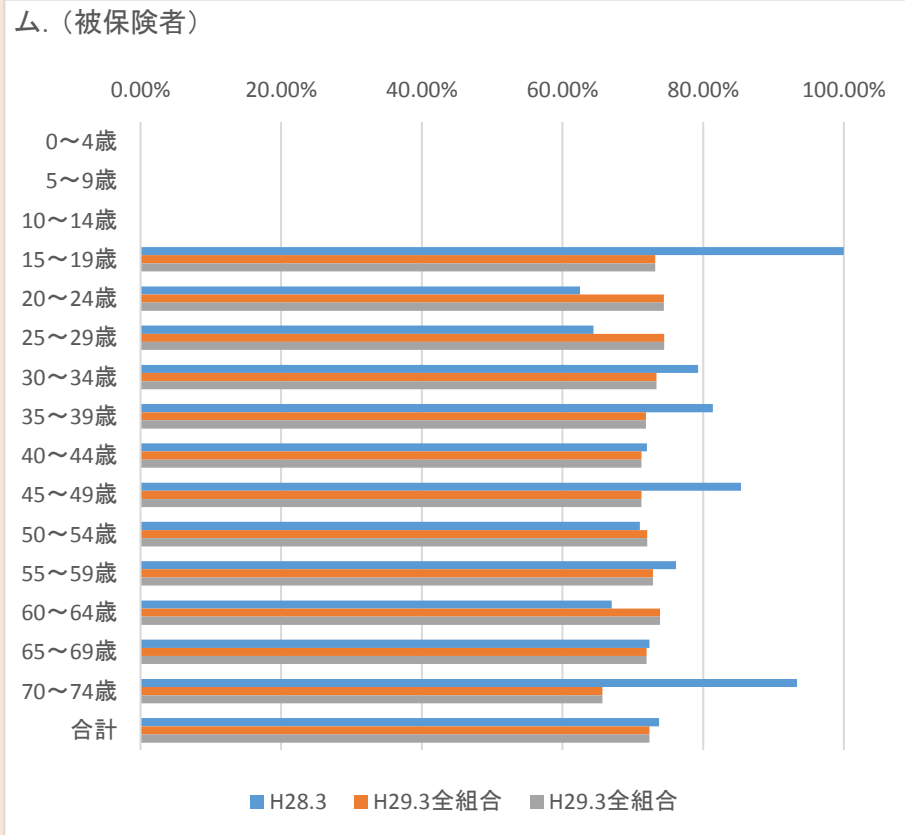


マ 被保険者の悪性新生物有病者数は、消化器を中心に30代から急増する。

ミ 被扶養者は、20代後半から「女性生殖器」が急増しており、一人あたり医療費が増加している「乳房」は30代後半から50代にかけて多い。

# STEP 1-3 後発薬

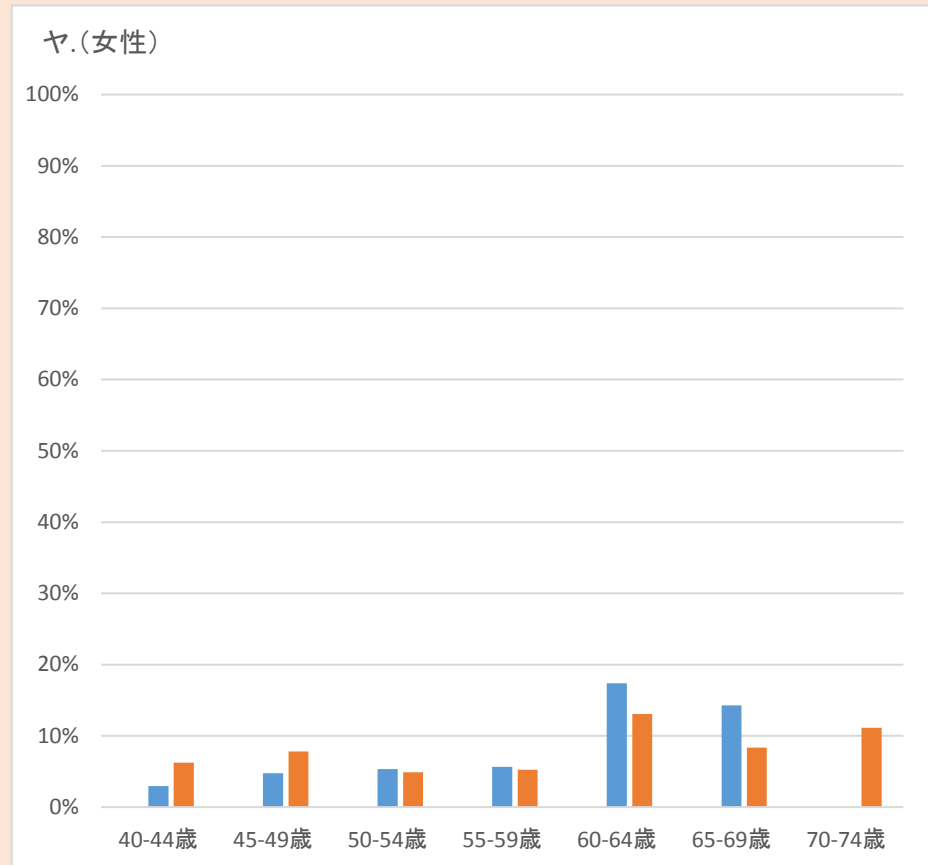
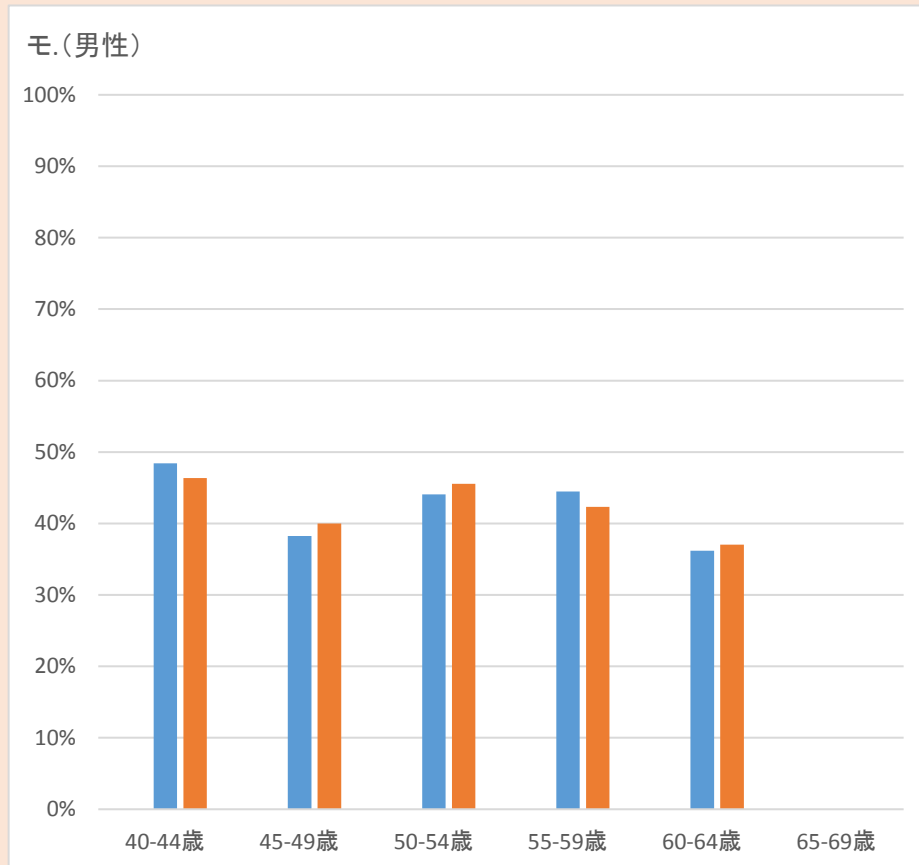
【後発医薬品の使用割合】



△ 被保険者では約72%、被扶養者では約70%と、他健保よりも高い増加傾向にあるが、目標には達していない。

# STEP 1 -3 喫煙の状況

【喫煙率】



モ  
ヤ

一部年代では喫煙率の増加傾向にあり、改善がみられていない。

## STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題	対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, ウ	<p>【特定健診：アイ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被扶養者の健診受診率が低く、健康状態の把握が不十分である。</li> <li>被保険者においても、一部データ未把握者が存在する。</li> </ul> <p>【特定保健指導：ウ～シ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導利用者には一定の効果が出ているが、実施率は目標に達しておらず、特に被保険者は他健保と比べても低い。</li> <li>内臓脂肪症候群該当者の改善率は他健保よりも低い。</li> </ul> <p>【生活習慣病健診結果：ツ～ナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肥満者割合が増加している。</li> <li>非肥満者でも生活習慣病リスク保有者が多い。</li> </ul>	<p>➔</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業主と連携し、特定保健指導や被扶養者健診が受けやすい環境整備と、重要性の理解度を深める。</li> <li>被扶養者健診未受診者に対して、受診勧奨をおこなう。</li> <li>特定保健指導にICT等を活用し、参加しやすい環境整備をおこなう。</li> <li>特定保健指導対象者に限らず情報提供を強化し、健保全体の健康意識の醸成を図る。</li> </ul>	<p>✓</p>
2	イ	<p>【診療区分別医療費：サ～ス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。</li> </ul> <p>【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セソ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。</li> <li>「筋骨格系」が前年と比べて増加している。</li> <li>年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。</li> <li>「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。</li> </ul> <p>【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。</li> <li>年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。</li> <li>「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している</li> </ul>	<p>➔</p> <p>【歯科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状把握や早期治療を目的に、歯科検診の受診機会をつくる。</li> </ul> <p>【筋骨格系】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>増加傾向にあるため、運動機会をつくることで予防を図る。</li> </ul> <p>【内分泌（糖尿病）、循環器（高血圧）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者は、特定保健指導によるリスク低減と、有所見者への受診勧奨にて重症化予防を図る。また、40・50代から医療費が増加しているため、40歳未満に対しても教育をおこなう必要がある。</li> <li>被扶養者は、まずはリスク把握のために健診受診率向上を図り、特定保健指導や重症化予防をおこなう。</li> </ul> <p>【呼吸器】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被扶養者で突出している子供の呼吸器対策として、ターゲットを絞った情報提供を強化する。</li> </ul>	
3	ウ	<p>【生活習慣病における医療費：ニ～ノ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者では、入院の虚血性心疾患が増加している。</li> <li>被扶養者では、入院の糖尿病、高血圧症、高脂血症が増加しており、重症化に発展する可能性がある。</li> </ul> <p>【医療受診状況、リスクフローチャート：ハヒフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病の受診勧奨対象者うち、6割以上が医療機関未受診である。</li> <li>糖尿病、脳卒中、心筋梗塞の高リスク保有者の中にも未治療者が存在する。</li> </ul>	<p>➔</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業主（産業医）とも連携をしながら、血圧及び血糖の高リスク者に対して、医療機関への受診勧奨をおこない、重症化予防を図る。</li> <li>被扶養者については、健診受診によるリスク把握を徹底する。</li> </ul>	

4	エ	<p>【悪性新生物：へ～ミ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被保険者においては、昨年比では減少しているものの消化器の一人あたり医療費が最も高く、30代から有病者数が増加している。また、男性生殖器も一人あたり医療費が増加しており、50代後半を中心に有病者数も増加している。</li> <li>・被扶養者においては、乳房の一人あたり医療費が増加し最も高く、有病者数は30代後半から50代にかけて多い。</li> </ul>	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増加している男性生殖器や乳房に対して検診受診促進を図る。</li> <li>・有病者数が増加する前の世代に対するがん検診補助を実施する。</li> <li>・早期発見、早期治療のために、健診受診率に向けた情報提供の強化と有所見者に対する受診勧奨をおこなう。</li> </ul>	
5	オ	<p>【後発薬：ムメ】</p> <p>他健保よりも高く増加傾向にあるが、目標には達していない。</p>	➔	<p>広報活動にて利用を促進する。</p>	
6	カ	<p>【喫煙：モヤ】</p> <p>一部年代では喫煙率の増加傾向にあり、改善がみられていない。</p>	➔	<p>喫煙者に対して情報提供や禁煙指導を実施する。</p>	

## 基本情報

No.	特徴	対策検討時に留意すべき点

## 保健事業の実施状況

No.	特徴	対策検討時に留意すべき点

## STEP 3 保健事業の実施計画

### 事業全体の目的

健診受診率・特定保健指導実施率の向上

### 事業全体の目標

健診受診率90%、特定保健指導実施率50%

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

#### 加入者への意識づけ

保健指導宣伝	機関紙発行
--------	-------

#### 個別の事業

特定健康診査事業	特定健康診査
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	健康図書配付
保健指導宣伝	電話健康相談
保健指導宣伝	歯科検診
疾病予防	人間ドック・脳ドック
疾病予防	家庭用常備薬
疾病予防	インフルエンザ予防接種
疾病予防	事業所定期検診の一部補助
疾病予防	共同巡回健診
疾病予防	からだいきいきキャンペーン
体育奨励	潮干狩り
体育奨励	施設利用補助
その他	体育館

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。



予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
職場環境の整備																			
加入者への意識づけ																			
保健指導宣伝	2	既存	機関紙発行	全て	男女	0~74	加入者全員	1	ス		ス		260	-	-	-	-	【特定健診：アイ】 ・被扶養者の健診受診率が低く、健康状態の把握が不十分である。 ・被保険者においても、一部データ未把握者が存在する。 【特定保健指導：ウヘシ】 ・特定保健指導利用者には一定の効果ができているが、実施率は目標に達しておらず、特に被保険者は他健保と比べても低い。 ・内臓脂肪症候群該当者の改善率は他健保よりも低い。 【生活習慣病健診結果：ツヘナ】 ・肥満者割合が増加している。 ・非肥満者でも生活習慣病リスク保有者が多い。	
													被保険者経由にて、社内報と合わせて配布	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討		継続予定だが前年度結果をふまえ検討
年間発行回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 令和元年度：2回 令和2年度：2回 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回)-												効果測定が困難なため(アウトカムは設定されていません)							
個別の事業																			
													8,465	-	-	-	-		

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度
特定健康診査事業	3,4	既存	特定健康診査	全て	男女	40～74	基準該当者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ケ,コ	・被保険者は事業主健診として実施 ・被扶養者は居住地域での巡回型健診にて、受診勧奨やICTを活用した情報提供まで実施	ア,ウ,エ,キ,コ	・被保険者は事業主健診として実施 ・被扶養者は他健保との共同事業として巡回型健診を実施	婦人科健診との同時実施や、居住地域での巡回型の健診を導入し、実施率向上を図る。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	特定健康診査の受診率向上、被保険者・被扶養者の健康維持。	<p>【特定健診：アイ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被扶養者の健診受診率が低く、健康状態の把握が不十分である。</li> <li>被保険者においても、一部データ未把握者が存在する。</li> </ul> <p>【特定保健指導：ウヘシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導利用者には一定の効果がでていますが、実施率は目標に達しておらず、特に被保険者は他健保と比べても低い。</li> <li>内臓脂肪症候群該当者の改善率は他健保よりも低い。</li> </ul> <p>【生活習慣病健診結果：ツヘナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肥満者割合が増加している。</li> <li>非肥満者でも生活習慣病リスク保有者が多い。</li> </ul> <p>【診療区分別医療費：サヘス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。</li> </ul> <p>【被保険者_診療区分別一人あたり医療費_医科計：セン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。</li> <li>「筋骨格系」が前年と比べて増加している。</li> <li>年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。</li> <li>「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。</li> </ul> <p>【被扶養者_診療区分別一人あたり医療費_医科計：タチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。</li> <li>年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。</li> <li>「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している</li> </ul> <p>【生活習慣病における医療費：ニ～ノ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者では、入院の虚血性心疾患が増加している。</li> <li>被扶養者では、入院の糖尿病、高血圧症、高脂血症が増加しており、重症化に発展する可能性がある。</li> </ul> <p>【医療受診状況、リスクフロチャート：ハヒフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病の受診勧奨対象者うち、6割以上が医療機関未受診である。</li> <li>糖尿病、脳卒中、心筋梗塞の高リスク保有者の中にも未治療者が存在する。</li> </ul> <p>【悪性新生物：ヘ～ミ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者においては、昨年比では減少しているものの消化器の一人あたり医療費が最も高く、30代から有病者数が増加している。また、男性生殖器も一人あたり医療費が増加しており、50代後半を中心に有病者数も増加している。</li> <li>被扶養者においては、乳房の一人あたり医療費が増加し最も高く、有病者数は30代後半から50代にかけて多い。</li> </ul>
														1,950	-	-	-	-	-	

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
特定保健指導事業	4,5,6	既存	特定保健指導	全て	男女	40～74	基準該当者	1	ア,オ,カ,キ,コ	・被扶養者は、対面型及びICTによる健康教育や特定保健指導を実施	ア,ウ,エ,キ,コ	・被扶養者は他健保との共同事業として実施	メタボリックシンドロームの減少を目的に保健指導を実施。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	特定保健指導者の実施率向上、生活習慣病リスク保有者の生活習慣・健康状態の改善。	【特定健診：アイ】 ・被扶養者の健診受診率が低く、健康状態の把握が不十分である。 ・被保険者においても、一部データ未把握者が存在する。 【特定保健指導：ウヘシ】 ・特定保健指導利用者には一定の効果がれているが、実施率は目標に達しておらず、特に被保険者は他健保と比べても低い。 ・内臓脂肪症候群該当者の改善率は他健保よりも低い。 【生活習慣病健診結果：ツヘナ】 ・肥満者割合が増加している。 ・非肥満者でも生活習慣病リスク保有者が多い。
事業所への協力依頼(【実績値】5回 【目標値】平成30年度：30回 令和元年度：20回 令和2年度：20回 令和3年度：10回 令和4年度：10回 令和5年度：10回)-												特定保健指導実施率(【実績値】8% 【目標値】平成30年度：10% 令和元年度：15% 令和2年度：20% 令和3年度：30% 令和4年度：40% 令和5年度：50%)-								
保健指導宣伝	7	既存	後発医薬品の差額通知	全て	男女	0～74	加入者全員	1	キ,ク	後発医薬品によって300円以上の効果があるものの差額通知を配送。	ア	-	一定額以上削減ができる者に対して差額通知書を配布(1回/年)。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	使用促進、調剤医療費の適正化。	【後発薬：ムメ】 他健保よりも高く増加傾向にあるが、目標には達していない。
年間発送回数(【実績値】1回 【目標値】平成30年度：1回 令和元年度：1回 令和2年度：1回 令和3年度：1回 令和4年度：1回 令和5年度：1回)-												使用割合(【実績値】75.8% 【目標値】平成30年度：78% 令和元年度：79% 令和2年度：80% 令和3年度：80% 令和4年度：80% 令和5年度：80%)-								
2	既存	医療費通知	全て	男女	0～65	加入者全員	1	シ	-	-	ア	-	レセプト単位で総医療費、健保組合の負担額、自己負担額を記載。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	自己が使用した医療費の明細を定期的に配布。	【診療区分別医療費：サヘス】 ・総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。 【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セン】 ・減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。 ・「筋骨格系」が前年と比べて増加している。 ・年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。 ・「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。 【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】 ・減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。 ・年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。 ・「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している
年間配布回数(【実績値】4回 【目標値】平成30年度：4回 令和元年度：4回 令和2年度：4回 令和3年度：4回 令和4年度：4回 令和5年度：4回)-												効果測定が困難なため(アウトカムは設定されていません)								
												274	-	-	-	-	-			

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
2,5	既存	健康図書配付	全て	男女	18～65	基準該当者	1	ス				月刊誌へるすあっぷ21を各事業所に配布(組合会議員・看護師対象)。すくすく赤ちゃんを第1子出産のお母さんに配布。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	健康情報図書配布で健康づくりを促進し、出産育児の不安や悩みを解消。	<p>【診療区分別医療費：サヘス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。</li> <li>【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セソ】</li> <li>・減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。</li> <li>・「筋骨格系」が前年と比べて増加している。</li> <li>・年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。</li> <li>・「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。</li> <li>【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】</li> <li>・減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。</li> <li>・年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。</li> <li>・「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している</li> </ul>
年間配布回数(【実績値】12回 【目標値】平成30年度：12回 令和元年度：12回 令和2年度：12回 令和3年度：12回 令和4年度：12回 令和5年度：12回)-												医療費等の効果測定が困難のため(アウトカムは設定されていません)								
5,6	既存	電話健康相談	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ケ				フリーダイヤルで24時間対応。外部業者に委託(含むメンタル相談)。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	24時間健康に関する相談に対応することで突発的な被保険者・被扶養者の健康に関する問い合わせにも対応。	<p>【診療区分別医療費：サヘス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。</li> <li>【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セソ】</li> <li>・減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。</li> <li>・「筋骨格系」が前年と比べて増加している。</li> <li>・年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。</li> <li>・「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。</li> <li>【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】</li> <li>・減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。</li> <li>・年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。</li> <li>・「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している</li> </ul> <p>【喫煙：モヤ】</p> <p>一部年代では喫煙率の増加傾向にあり、改善がみられていない。</p>
機関紙による案内(【実績値】7回 【目標値】平成30年度：7回 令和元年度：7回 令和2年度：7回 令和3年度：7回 令和4年度：7回 令和5年度：7回)-												利用件数(【実績値】122件 【目標値】平成30年度：150件 令和元年度：150件 令和2年度：150件 令和3年度：150件 令和4年度：150件 令和5年度：150件)-								
													597	-	-	-	-	-		

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連					
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画											
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度				
アウトプット指標												アウトカム指標												
3,4	新規	歯科検診	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ウ,オ,ク	-	ウ,キ	-	・有所見者への受診勧奨実施 ・個人に適したブラッシング指導、歯面清掃、歯科相談、フッ素塗布等実施	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	歯の健康意識向上による医療費低減	【診療区分別医療費：サ～ス】 ・総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。 【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セソ】 ・減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。 ・「筋骨格系」が前年と比べて増加している。 ・年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。 ・「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。 【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】 ・減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。 ・年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。 ・「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している					
参加人数【実績値】 - 【目標値】平成30年度：100人 令和元年度：100人 令和2年度：100人 令和3年度：100人 令和4年度：100人 令和5年度：100人)-												効果測定が困難なため (アウトカムは設定されていません)												
													42,891	-	-	-	-	-						

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連			
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画									
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度		
疾病予防	3	既存	人間ドック・脳ドック	全て	男女	30～74	基準該当者	1	イ,ウ,ケ	キ		アウトプット指標					アウトカム指標					<p>【特定健診：アイ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被扶養者の健診受診率が低く、健康状態の把握が不十分である。</li> <li>被保険者においても、一部データ未把握者が存在する。</li> </ul> <p>【特定保健指導：ウヘシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導利用者には一定の効果が出ているが、実施率は目標に達しておらず、特に被保険者は他健保と比べても低い。</li> <li>内臓脂肪症候群該当者の改善率は他健保よりも低い。</li> </ul> <p>【生活習慣病健診結果：ツヘナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肥満者割合が増加している。</li> <li>非肥満者でも生活習慣病リスク保有者が多い。</li> </ul> <p>【診療区分別医療費：サヘス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。</li> </ul> <p>【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。</li> <li>「筋骨格系」が前年と比べて増加している。</li> <li>年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。</li> <li>「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。</li> </ul> <p>【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。</li> <li>年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。</li> <li>「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している</li> </ul> <p>【生活習慣病における医療費：ニ～ノ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者では、入院の虚血性心疾患が増加している。</li> <li>被扶養者では、入院の糖尿病、高血圧症、高脂血症が増加しており、重症化に発展する可能性がある。</li> </ul> <p>【医療受診状況、リスクフローチャート：ハヒフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病の受診勧奨対象者うち、6割以上が医療機関未受診である。</li> <li>糖尿病、脳卒中、心筋梗塞の高リスク保有者の中にも未治療者が存在する。</li> </ul> <p>【悪性新生物：ヘ～ミ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者においては、昨年比では減少しているものの消化器の一人あたり医療費が最も高く、30代から有病者数が増加している。また、男性生殖器も一人あたり医療費が増加しており、50代後半を中心に有病者数も増加している。</li> <li>被扶養者においては、乳房の一人あたり医療費が増加し最も高く、有病者数は30代後半から50代にかけて多い。</li> </ul>
												30歳以上の被保険者及び被扶養者を対象、年1回受診者負担10,000円で設定。										
受診案内(【実績値】 2回 【目標値】 平成30年度：2回 令和元年度：2回 令和2年度：2回 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回)-												健診受診率(【実績値】 36% 【目標値】 平成30年度：37% 令和元年度：37% 令和2年度：38% 令和3年度：38% 令和4年度：38% 令和5年度：38%)-										
												5,550	-	-	-	-	-					

予算科目	注1) 事業分類	新規 既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連		
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画								
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度	
アウトプット指標												アウトカム指標									
2	既存		家庭用常備薬	全て	男女	18～74	加入者全員	1	ケ	-	ス	-	家庭用常備薬購入費の一部補助(年2回実施)。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	初期症状の緩和、通院日数の削減。	<ul style="list-style-type: none"> <li>【診療区分別医療費：サヘス】</li> <li>・総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。</li> <li>【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セソ】</li> <li>・減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。</li> <li>・「筋骨格系」が前年と比べて増加している。</li> <li>・年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。</li> <li>・「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。</li> <li>【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】</li> <li>・減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。</li> <li>・年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。</li> <li>・「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している</li> </ul>
年間実施回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 令和元年度：2回 令和2年度：2回 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回)-												利用者数(【実績値】3,606人 【目標値】平成30年度：3,700人 令和元年度：3,700人 令和2年度：3,700人 令和3年度：3,700人 令和4年度：3,700人 令和5年度：3,700人)-									
3	既存		インフルエンザ予防接種	全て	男女	0～64	加入者全員	1	キ,ケ	-	ア,キ	-	希望者にインフルエンザ予防接種費用を被保険者は1,300円補助、被扶養者は1,000円補助。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	インフルエンザによる重症化防止。	<ul style="list-style-type: none"> <li>【診療区分別医療費：サヘス】</li> <li>・総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。</li> <li>【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セソ】</li> <li>・減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。</li> <li>・「筋骨格系」が前年と比べて増加している。</li> <li>・年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。</li> <li>・「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。</li> <li>【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】</li> <li>・減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。</li> <li>・年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。</li> <li>・「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している</li> </ul>
HP上での情報発信期間(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：4ヵ月 令和元年度：4ヵ月 令和2年度：4ヵ月 令和3年度：4ヵ月 令和4年度：4ヵ月 令和5年度：4ヵ月)-												接種率(【実績値】48% 【目標値】平成30年度：50% 令和元年度：50% 令和2年度：50% 令和3年度：50% 令和4年度：50% 令和5年度：50%)-									
												8,732									



予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連		
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画								
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度	
アウトプット指標												アウトカム指標									
3	既存		事業所定期検診の一部補助	全て	男女	18～74	被保険者	1	ケ	-	ア	-	事業所定期健診として法定項目以外に設定する健診項目を対象に補助。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	定期健診の内容充実。	<p>【特定健診：アイ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被扶養者の健診受診率が低く、健康状態の把握が不十分である。</li> <li>被保険者においても、一部データ未把握者が存在する。</li> </ul> <p>【特定保健指導：ウヘシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定保健指導利用者には一定の効果がでていますが、実施率は目標に達しておらず、特に被保険者は他健保と比べても低い。</li> <li>内臓脂肪症候群該当者の改善率は他健保よりも低い。</li> </ul> <p>【生活習慣病健診結果：ツヘナ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肥満者割合が増加している。</li> <li>非肥満者でも生活習慣病リスク保有者が多い。</li> </ul> <p>【診療区別医療費：サヘス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。</li> </ul> <p>【被保険者__診療区別一人あたり医療費__医科計：セン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。</li> <li>「筋骨格系」が前年と比べて増加している。</li> <li>年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。</li> <li>「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。</li> </ul> <p>【被扶養者__診療区別一人あたり医療費__医科計：タチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。</li> <li>年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。</li> <li>「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している</li> </ul> <p>【生活習慣病における医療費：ニ～ノ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者では、入院の虚血性心疾患が増加している。</li> <li>被扶養者では、入院の糖尿病、高血圧症、高脂血症が増加しており、重症化に発展する可能性がある。</li> </ul> <p>【医療受診状況、リスクフローチャート：ハヒフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病の受診勧奨対象者うち、6割以上が医療機関未受診である。</li> <li>糖尿病、脳卒中、心筋梗塞の高リスク保有者の中にも未治療者が存在する。</li> </ul> <p>【悪性新生物：ヘ～ミ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者においては、昨年比では減少しているものの消化器の一人あたり医療費が最も高く、30代から有病者数が増加している。また、男性生殖器も一人あたり医療費が増加しており、50代後半を中心に有病者数も増加している。</li> <li>被扶養者においては、乳房の一人あたり医療費が増加し最も高く、有病者数は30代後半から50代にかけて多い。</li> </ul>	
利用事業所割合【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 令和元年度：100% 令和2年度：100% 令和3年度：100% 令和4年度：100% 令和5年度：100%-												被保険者健診受診率【実績値】90% 【目標値】平成30年度：95% 令和元年度：95% 令和2年度：95% 令和3年度：95% 令和4年度：95% 令和5年度：95%-									
														3,427	-	-	-	-	-		



予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連					
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画											
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和5年度				
アウトプット指標												アウトカム指標												
3,4,5,6	既存		共同巡回健診	一部の事業所	女性	40～74	被扶養者	1	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ケ,ク				ウ,エ,オ,キ			検診車が各地域を巡回して健診を実施。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	自宅から近い所で受診可能なため被扶養者の女性に限定して受診率向上が望める。	【特定健診：アイ】 ・被扶養者の健診受診率が低く、健康状態の把握が不十分である。 ・被保険者においても、一部データ未把握者が存在する。 【特定保健指導：ウヘシ】 ・特定保健指導利用者には一定の効果が出ているが、実施率は目標に達しておらず、特に被保険者は他健保と比べても低い。 ・内臓脂肪症候群該当者の改善率は他健保よりも低い。 【生活習慣病健診結果：ツヘナ】 ・肥満者割合が増加している。 ・非肥満者でも生活習慣病リスク保有者が多い。
健診受診案内回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：2回 令和元年度：2回 令和2年度：2回 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回)-												健診受診率(【実績値】16% 【目標値】平成30年度：17% 令和元年度：17% 令和2年度：18% 令和3年度：18% 令和4年度：18% 令和5年度：18%)-												
2,5	新規		からだいきいきキャンペーン	全て	男女	18～74	被保険者	3	ア,ケ				ア			事業主との共同事業にて、運動・食事・禁煙に関するキャンペーンを展開	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	生活習慣の改善及び健康意識の向上	【診療区分別医療費：サヘス】 ・総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。 【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セン】 ・減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。 ・「筋骨格系」が前年と比べて増加している。 ・年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。 ・「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。 【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】 ・減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。 ・年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。 ・「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している 【生活習慣病における医療費：ニヘノ】 ・被保険者では、入院の虚血性心疾患が増加している。 ・被扶養者では、入院の糖尿病、高血圧症、高脂血症が増加しており、重症化に発展する可能性がある。 【医療受診状況、リスクフローチャート：ハヒフ】 ・生活習慣病の受診勧奨対象者うち、6割以上が医療機関未受診である。 ・糖尿病、脳卒中、心筋梗塞の高リスク保有者の中にも未治療者が存在する。
参加者数(【実績値】2,983人 【目標値】平成30年度：3,100人 令和元年度：3,100人 令和2年度：3,100人 令和3年度：3,100人 令和4年度：3,100人 令和5年度：3,100人)-												効果測定が困難なため(アウトカムは設定されていません)												
8	既存		潮干狩り	全て	男女	0～74	加入者全員	2	ケ				ア			健保・会社・労組で共同開催を実施。参加費は無料。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	職場・家族の親睦を深め、健康づくりに繋がる。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
参加者数(【実績値】0人 【目標値】平成30年度：2,200人 令和元年度：2,200人 令和2年度：2,200人 令和3年度：2,200人 令和4年度：2,200人 令和5年度：2,200人)H29年度は貝毒のため中止。												効果測定が困難なため(アウトカムは設定されていません)												
8	既存		施設利用補助	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ケ				ス			利用補助券を提供。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	職場・家族の親睦を深め、健康づくりに繋がる。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
利用者数(【実績値】3,168人 【目標値】平成30年度：3,500人 令和元年度：3,500人 令和2年度：3,500人 令和3年度：3,500人 令和4年度：3,500人 令和5年度：3,500人)-												効果測定が困難なため(アウトカムは設定されていません)												
												16,031												

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							

その他	5	既存	体育館	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ケ	ア	愛知県額田郡幸田町のハッピネス(施設名称)でトレーニングジム、バドミントン・バレーボールなどが行えるアリーナ、屋外テニスコートが利用できる。	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	継続予定だが前年度結果をふまえ検討	健康維持・増進のための施設。	<p>【診療区分別医療費：サヘス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総医療費は減少しているが、総医療費・一人あたり医療費ともに歯科が増加している。</li> <li>【被保険者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：セソ】</li> <li>・減少しているものの、生活習慣病に関連する「内分泌」「循環器」や「呼吸器」が上位を占める。</li> <li>・「筋骨格系」が前年と比べて増加している。</li> <li>・年齢階層別では、30代と40代前半が前年と比べ増加している。</li> <li>・「循環器」が40代後半から、「内分泌」は50代から増加している。</li> <li>【被扶養者__診療区分別一人あたり医療費__医科計：タチ】</li> <li>・減少しているものの、「呼吸器」が最も高く他組合よりも高い。</li> <li>・年齢階層別では、50代が前年と比べ増加している。</li> <li>・「呼吸器」は10歳未満にて高く、「内分泌」は50代後半から増加している</li> </ul> <p>【生活習慣病における医療費：ニ～ノ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被保険者では、入院の虚血性心疾患が増加している。</li> <li>・被扶養者では、入院の糖尿病、高血圧症、高脂血症が増加しており、重症化に発展する可能性がある。</li> <li>【医療受診状況、リスクフローチャート：ハヒフ】</li> <li>・生活習慣病の受診勧奨対象者うち、6割以上が医療機関未受診である。</li> <li>・糖尿病、脳卒中、心筋梗塞の高リスク保有者の中にも未治療者が存在する。</li> </ul>
利用者数(【実績値】14,811人 【目標値】平成30年度：15,000人 令和元年度：15,000人 令和2年度：15,000人 令和3年度：15,000人 令和4年度：15,000人 令和5年度：15,000人)-												効果測定が困難なため(アウトカムは設定されていません)						

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認(要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況) ウ. 受診状況の確認(がん検診・歯科健診の受診状況) エ. ICTの活用(情報作成又は情報提供でのICT活用など) オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施  
キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など) ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備) コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他

注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築(産業医・産業保健師を除く) エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築 キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築  
ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可(事業主と合意) サ. 運営マニュアルの整備(業務フローの整理) シ. 人材確保・教育(ケースカンファレンス/ライブラリーの設置) ス. その他